

夢を実現させる

不動産学

別冊-37

合格体験記

2024 年度

不動産鑑定士試験

宅地建物取引士試験



明海大学不動産学部
資格支援委員会

目 次

合格体験記によせて.....	2
明海大学不動産学部長 中城 康彦	
担当教員からのメッセージ.....	8
明海大学不動産学部非常勤講師 島本 昌和	
担当教員からのメッセージ.....	10
明海大学不動産学部非常勤講師 池田 孝	
担当教員からのメッセージ.....	11
明海大学不動産学部非常勤講師 蒲原 茂明	
担当教員からのメッセージ.....	15
明海大学不動産学部非常勤講師 片川 卓也	
不動産鑑定士合格体験記.....	18
宅地建物取引士合格体験記	
1年生	22
2年生	36
3年生	51
4年生	58

合格体験記によせて

～人材育成の思いと資格取得の支援～

明海大学不動産学部長

中城 康彦

1. 日本で唯一の不動産学部

明海大学不動産学部は1992年4月に創設され、2024年度で33年目を迎えました。この間、日本で唯一の不動産学部として教育と研究の実績を積み重ね、これまでに社会に送り出した卒業生（学士（不動産学））の数は6,117名にのぼります。

不動産学を法学・経済学・経営学・工学にわたる**学際領域**の学問として構成し、多面的な能力をもつ人材育成を行うことに学部教育の特徴があります。

実学を重視し、その一環として資格取得を奨励しています。特に、宅地建物取引士資格試験¹（以下、「宅建士」といいます。）合格は、不動産業や金融業で活躍するための“パスポート”となることから、多面的に支援しています。

2. 不動産学を学ぶ

不動産と聞くと、自分とは無縁の世界、不動産学を学ぶことは、自分には意味がない、と思う人もいるかも知れません。しかし、土地や建物を利用していない瞬間はほとんどありません。土地や建物、すなわち、不動産を売買するなどの体験は稀としても、住宅に住む、事務所で仕事する、お店で買い物をするなど、利用者としては常に不動産にかかわっているのです。不動産ほど、くらしの幸せ、仕事の快適性や社会の豊かさと密接に関係するものはないといえます。不動産学ほど身近で、学ぶ意味が大きいものは少ないのです。

3. カリキュラム：身近なことをしっかりと知る

住宅の一つである賃貸マンションを例に、不動産学で何を学ぶかについて考えてみましょう（図1）。

賃貸マンションの家主は事業主として；

- ① 宅地建物取引業者に媒介（仲介）を依頼して、土地を購入します。このとき、土地購入や建築費の支払いのために、
- ② 金融機関から必要な資金を借り入れます。
- ③ 建築設計事務所に建築設計を依頼します。その後、完成した設計図面にもとづいて、
- ④ 建築施工会社に工事を依頼します。その後、完成した建物について、
- ⑤ 宅地建物取引業者に媒介（仲介）を依頼して、建物を賃貸するとともに、

¹ 従来は宅地建物取引主任者と言われていましたが、2015年4月から宅地建物取引士と呼称が変更されました。

⑥ 不動産管理会社に管理委託します。

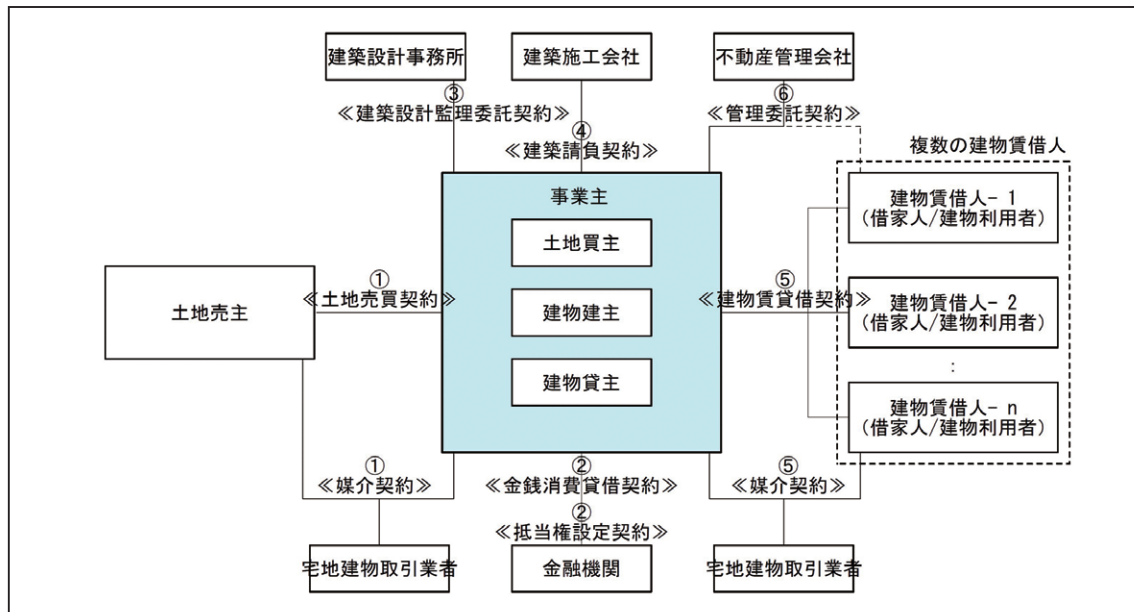


図1 賃貸マンションをつかって利用する

これら各段階の行為で、法学（契約の知識など）、経済学（価格の知識など）、工学（建築設計施工の知識など）、経営学（採算の知識など）の知識が必要となり、不動産学部ではこれらを個別、かつ、包括的に教授します²（図2）。

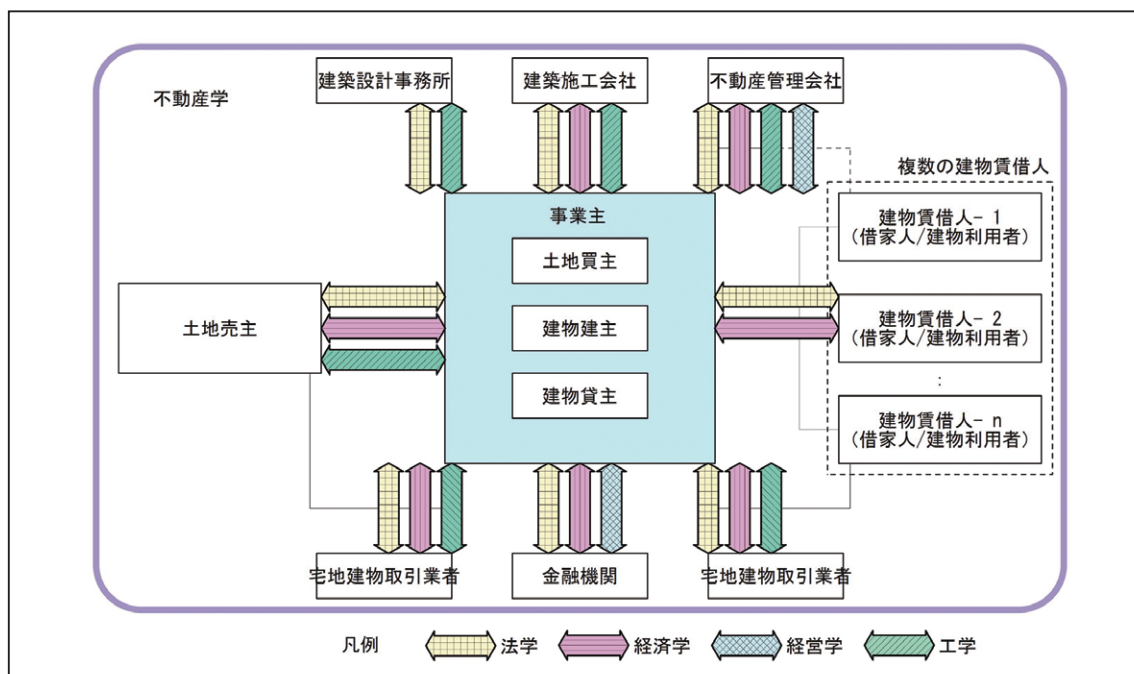


図2 賃貸マンションに必要な知識

² ここでは賃貸マンション事業を例示していますが、その他の事業についても同様です。

4. 得意をのばす：3つのコース

図1は事業主からみれば一連で一体の行為ですが、不動産業においては、流通業、金融業、開発業、金融業、管理業、賃貸業などに区分されています(図3)。

不動産学部ではビジネスコース、ファイナンスコース、デザインコースの3コースを設けてこれらをカバーし、希望する就職の実現を図ります(図4)。コースには2年から分かれ、学生はいずれかに属して自らの得意分野に磨きをかける仕組みです。

また、関係する専門職業家を目指す学生の指導をします(図4下段)。

5. 学ぶよろこびを知る：鉄は熱いうちに打て

2014年度入学生から適用している現カリキュラムは、それまでの成果を踏まえつつ;

- ① 具体的スキルの証明としての資格取得が重視されてきた、
- ② 資格取得を目指す学生は不動産学への取り組みも熱心である、
- ③ 就職に有利なことが明白である、

ことより、1年次、おそくとも2年次までに宅建士に合格し、3年次、4年次でそれを発展させて不動産学を修得する方針としました。

国家資格である宅建士に合格することで、知識がつき、自信がつき、達成感を得ることによって学ぶよろこびを知り、それが更なる学修意欲と学修効果につながることをねらったものです。

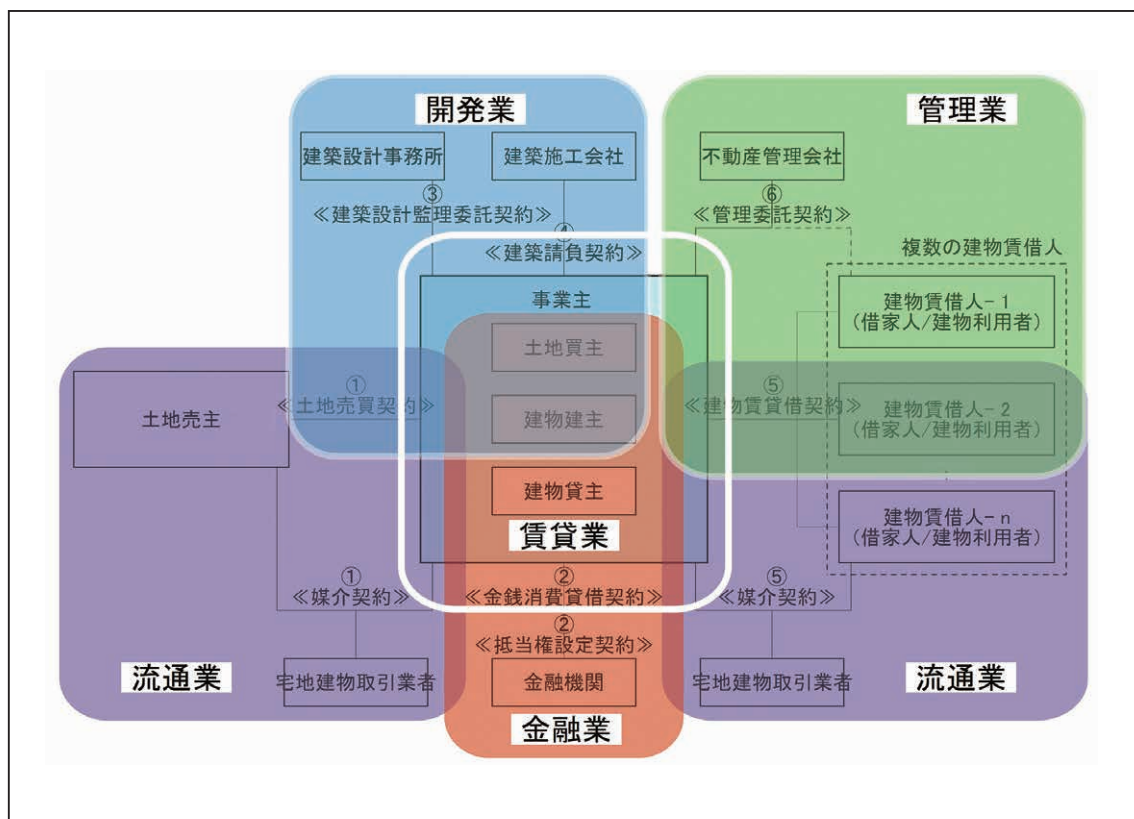


図3 不動産業の種類

6. 人材育成のねらい

不動産学部では、1年次、2年次において、法学・経済学・経営学・工学の4つの学問の考え方を学ぶとともに、宅建士に合格し、3年次、4年次では、土地・建物・地域・環境といった不動産の構成要素を題材として、4つの学問を深化・統合させて不動産学を学修します。

卒業生は、学際的な知識を有していることを背景として、土地や建物、地域や都市、個人や企業など、身の回りの事象をいろいろの切り口で切り取って、理解し、分析し、提案し、実行する、高度で、かつ、広範な専門知識を持つ“**T型人間**”として活躍します。活動分野は、**不動産業**にとどまらず、土地や建物と関係する**およそすべての企業**で活躍が期待され、**専門職業家**として活躍する門戸も広がっています。また、市井の**生活者**として**個人**の生活設計、地域活動、マンション管理などでも**期待される人材**となることも強みです(図5)。

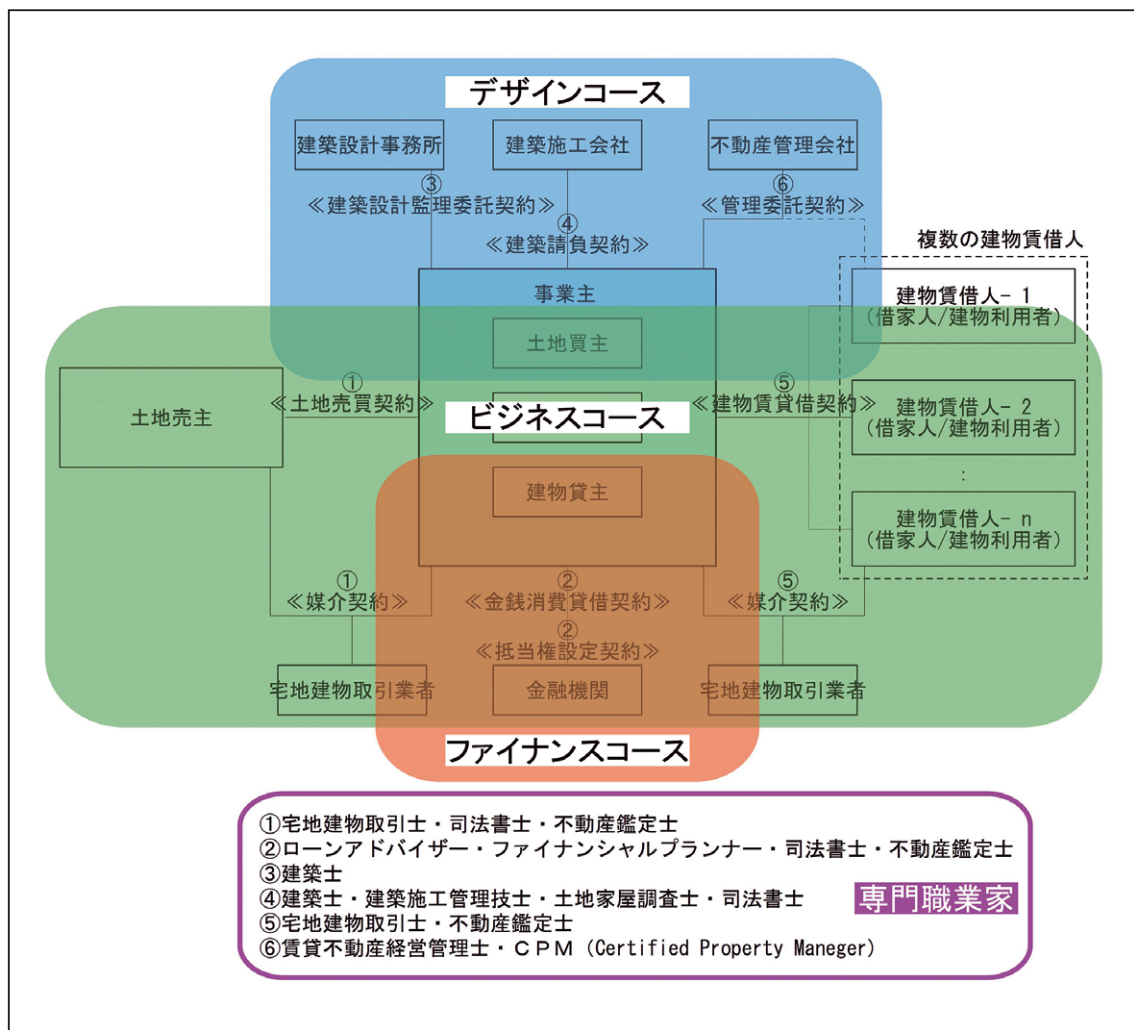


図4 不動産学部の3つのコース

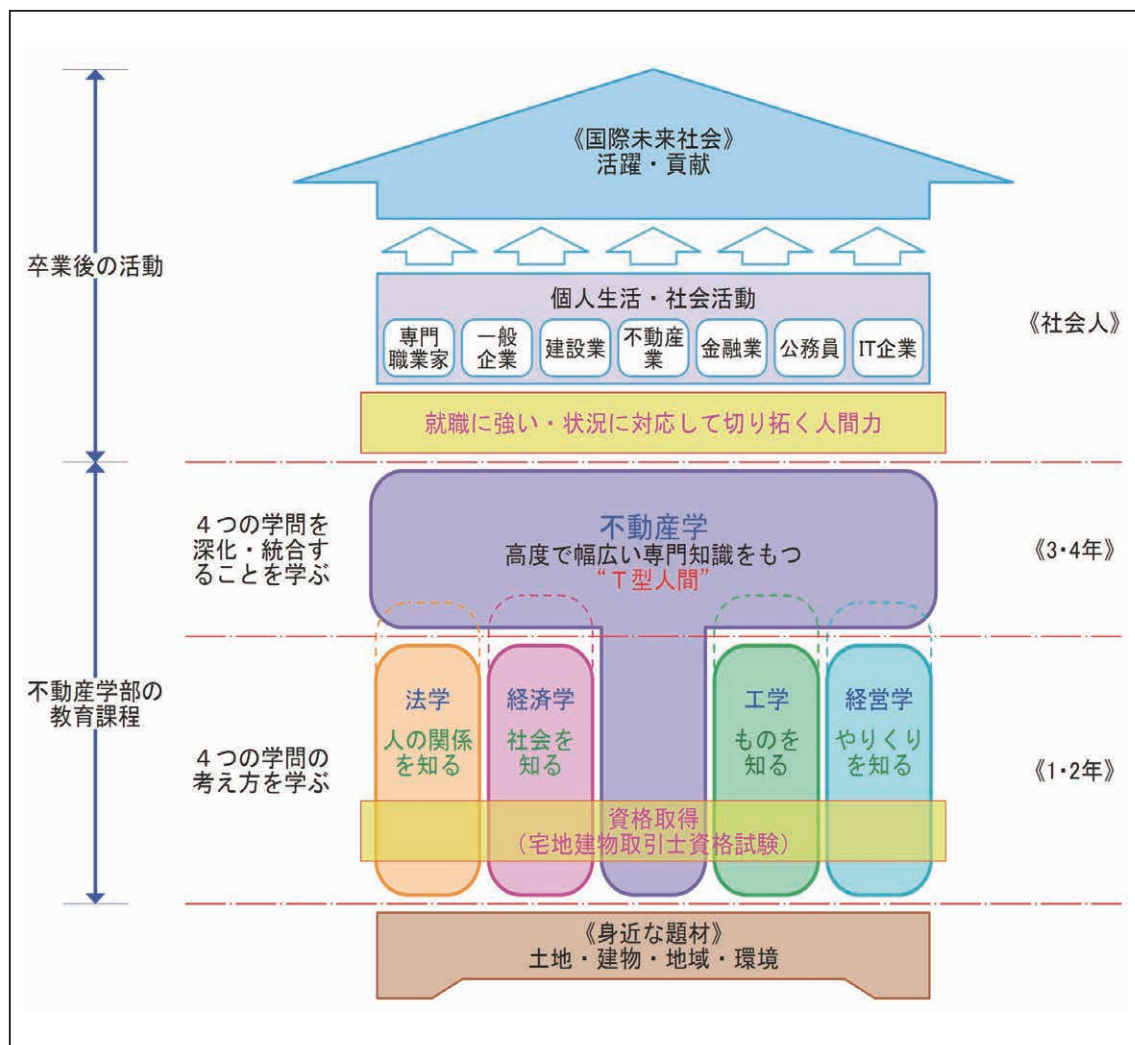


図5 不動産学部の人材育成

7. 2024年度宅建士合格おめでとう

洋々と開ける将来を確実に自分のものとするため、現カリキュラムでは、1年次、2年次のうちに必ず宅建士に合格するよう、必修科目を配置するとともに、その一部について、単位取得を2年次、3年次への進級の要件としています。文字通り“鉄は熱いうちに打て”を実践します。そのために、専属教員の配置、随時の質問対応、オープンカレッジ講座、宅建夏季セミナーなど、万全の支援体制を敷き、達成可能な環境を整備しています。

宅建士は図1の宅地建物取引業、すなわち、不動産を売ったり買ったり（売買）、貸したり借りたり（貸借）する仕事に必要な資格ですが、図1に示す全体像をカバーする知識が求められることより、宅地建物取引業に限定されることなく、他の仕事に就く場合でも有効な“パスポート”となっていることが強く推奨する理由です。

2024年度の宅建士の合格体験記を編纂いたしました。学生の体験と生の声がおさめられています。ぜひともご一読ください。本冊子が不動産学と不動産学部で学修する学生をご理解いただく一助になれば幸いです。そしてまた、宅建士やその他の資格取得を目指す契機となり、ひいては明海大学不動産学部での勉学に興味を持つ契機となればまたとない喜びです。

2025年3月

担当教員からのメッセージ

～ Taking Off ～

■法律を学ぶこと

明海大学不動産学部の子生は宅地建物取引士の試験に合格することが求められています。

この試験に合格するためには、民法をはじめ、宅建業法、建築基準法など様々な関係法令を学ばなければなりません。

大昔、宅建試験がはじまった頃、宅建試験は「易しい資格」と言われたこともありましたが、そのころに取得した人の中には、「宅建なんて簡単にとれる」という方もいます。しかし、現在は問題も難しくなり、さらに合格点も高くなったため、「易しい資格」といえるようなものではなくなっています。

したがって、合格のためにはかなりの努力が必要となります。ひょっとしたら宅建試験の勉強をこれから始めていくことに自信がなかったり、勉強することに尻込みをしている方もいるかもしれませんね。

しかし、こうした法令を学ぶことは、宅建試験という試験に合格するためだけではなく、皆さんが例え宅建業の世界に進まなかったとしても、これから生きていく上で非常に大きな力となります。

皆さんはまだ大学に入ったばかりですが、法律の世界では「大人」として扱われています。以前なら「未成年だから」、ということで得られていた保護もなくなり、大人と同様に厳しい世界で生きていかなければなりません。そうした世界には悪い人も沢山います。皆さんを欺そうとしてきたり、皆さんが法律を知らないことをいいことにいろいろ不利益な扱いをしようとする人も出てくるでしょう。

皆さんは、そうした世界に放り込まれたのです。また、大学を卒業後、ビジネスの世界に入ったならば、さらに沢山の危険に遭遇することになります。私が不動産の世界に足を踏み入れたのは29歳の時、友人の紹介で横浜の不動産会社でアルバイトを始めたのがきっかけでした。その会社は、社長1人で年間数十棟の建売りをを行う業者でしたが、沢山の土地を仕入れるため、毎日、土地の資料を持った宅建業者や、金融業者、さらには、よく素性の分からない人が事務所にやってきます。中には権利関係の処理の難しい土地や、利用が難しくて商品にならない土地（資料だけは良さそうにでっち上げているが商品化するのは現実的ではない）、そもそも本当に売り物かどうか分からないもの、果ては物件の資料を持ってきた人が全く信用できない（詐欺師じゃないか？）など、うかつに手を出せないようなものが沢山混じっています。その中から、商品になる

明海大学不動産学部非常勤講師
島本 昌和



ものを見つけ、どうやったら難しい権利関係処理して、欺されずに、仕入を行っていきけるかが腕の見せ所です。

そのためには、経験や直感、知識が必要です。実際の業務を進めながら身につけていくことも多いのですが、いま、準備できることも沢山あります。悪い人は法律をととてもよく知っています。中には、法律を自分勝手に解釈してこちらを丸め込もうとする人もいます。負けないためには（欺されないためには）、こちらもしっかり勉強しておく必要があるのです。

法律はそれを知らない人には厳しいものです。例えば誰かが自分の土地を占有しているときに、放置しておいたら、その土地を他人に取られてしまうこともあります（法律で認められている制度です）。そのときに、「そんなこと知らなかったのだから何とかしてください」と泣きついてても誰も助けることはできません。法律の世界では「そんな大事なことを知らない奴が悪い。」ということになってしまうのです。

■講義について

これから始まる宅建の講義では、できるだけ具体的な事例を想定しながら、「こんなことをしたら、こんなトラブルに巻き込まれる」とか、「この取引の時にはこういうことに気をつける」「この様な場合にはこの様に対処する」など皆さんが現実暮らしでいく上で大切なことを出来るだけイメージが湧くように話を進めていきます。

■資格取得後は

宅建士の資格を取ったならばたった1人でも不動産業を開業することもできます。もちろん大きな会社に勤めるのも良いですが、小さくても一国一城の主として自分の力を信じてビジネスの世界で生きていくのも自由で楽しいものです。そうした世界で生きていくためにも、大学生活においてできるだけ多くの力を身につけて輝かしい将来へ羽ばたいてください。

ご両親がくれた切符も大学までで終わりです。ここから先は自分で行き先を見つけるのです。未来は皆さん次第。動き始めるのは今、一緒にスタートしましょう。

担当教員からのメッセージ

～「自分」を見つける～

■宅地建物取引士試験とは

明海大学不動産学部は学生は宅地建物取引士の試験（以下「宅建試験」という。）に合格することが求められ、私たちもそれを全力でサポートしています。全学生を合格に導きたいと努力をしておりますが、現実問題として全学生が合格するわけではありません。

学生と私たちが合格を目指す宅建試験は試験内容が宅地建物取引業者や宅地建物取引士（以下「宅建士」という。）が遵守することを求められる宅地建物取引業法のみならず、民法、不動産登記法、都市計画法・建築基準法等の不動産関係法令、不動産に関連する税法、その他と多岐にわたります。

試験は択一式で行われており、年輩の宅建士の中には誰でも取れる易しい試験だという方もいらっしゃいます。確かに合格率を見ると、制度開始直後の昭和33年は約93%、同34年は約98%、その後も昭和40年代半ばまでは概ね25～50%の合格率でした。

しかし、現在は試験の難易度が上がっており、合格率は概ね15%程度で推移しています。つまり、6～7人に1人しか合格できない試験になりました。合格判定の基準点は試験問題の難易度により異なりますが、50問のうち31～38点となっています。

以上のように宅建試験は初めての資格試験としては難易度が高い試験かもしれません。しかしながら、このような試験だからこそ学生時代に合格することの価値は大きく、数年後に社会人として活躍する学生にとって大きなアドバンテージになります。

国家資格を取得しているということを就職等でアピールできることは言うまでもないですが、何より、大変な試験勉強を乗り越え、「やればできる」という自信を学生自身が得ることができたという経験そのものが何ものにも代えがたいものとなるはずです。

■合格までの学修

社会人経験がない学生にとって、法律や法令、税金等は馴染みがなく、外国語を勉強するよりも大変かもしれません。でも、思い出してください。皆さんが英語の学習を始めた時のことを。初めは全く分からなかった英語が単語や文法をひとつひとつ覚え、会話を楽しむことで少しずつ話せたり、読めたりしましたよね。

明海大学不動産学部非常勤講師

池田 孝



宅建試験の勉強も同じです。合格を勝ち取った学生も初めから民法や宅地建物取引業法、都市計画法等を知っていたわけではないのです。ほぼ全ての学生が初めは何を言っているのか分からない状態でスタートしています。そんな学生達ですが、毎日コツコツと学修を続けた結果、問題文の意味が分かるようになり、問題演習に正解するようになり、合格ラインに到達するのです。

問題文の意味が分かるようになり、少しずつ正解するまでが大変なのです。大半の学生が問題文の意味が分かるようになる前に諦めてしまいます。自分の可能性を信じ続けることができないのです。誰でも英語を学び続けていればコミュニケーションを図れるレベルには行けるはずです。その段階は才能ではなくコツコツ続ける努力です（一部、才能の要素もあるかもしれませんが）。

明海大学不動産学部では授業（講義）における学修は合格に必要な知識のインプットのみならず、問題演習のアウトプットも行います。また、授業後の質問機会だけでなく、スチューデントルームという自習室で宅建教員が質問を受ける機会を設けています。また、講義以外で問題演習を行うことができるオープンカレッジもあります。これらを十分に活用して合格を掴み取ってください。

■合格後について

宅建試験に合格した学生は「やればできる」という自信を手にすることができます。また、宅建試験は不動産に関する幅広い知識を獲得しますので、その後は不動産鑑定士、土地家屋調査士、マンション管理士、ファイナンシャルプランナー等様々な資格を取得するダブルライセンス、トリプルライセンスを目指すことができます。

また、明海大学不動産学部では不動産鑑定士を目指すサークルがあり、宅建試験合格後に更なる学修を進める学生もいます。

「千里の道も一歩から」

ともに歩みを進めましょう。

担当教員からのメッセージ

大学4年間で何をすべきか。大学に入学した学生の皆さんの頭にある大きな問題です。大学生生活は4年間あり、夏休み、冬休み、春休みと講義がない期間も長期にわたります。高校生から大学生になり、やりたいと思っていたことを持っている方も多いと思います。せっかくの大学生活、友達と遊びたい、アルバイトに打ち込みたい、サークル活動を一生懸命励みたいといろいろとあるでしょう。

ただ、振り返ってみると長いようで短い4年間ともいえます。何かをやりとげるには短い期間かもしれません。大学に入学した際には、是非大学時代に本気で打ち込みことを見つけてほしいと思います。

明確な目標をもってその目標に向かって一生懸命に努力する。そういった経験は、社会人になってからも大きな財産となるはずです。

明海大学不動産学部では宅地建物取引士試験の合格を皆さんへの目標と課しています。

宅地建物取引士は、不動産取引を行う際に必ず必要となる国家資格です。そこには民法、宅建業法、法令上の制限等各種の法律を学ぶことが求められます。大学に入学して最初の目標にするには最高の試験です。資格試験として不動産実務に有用で、これがあれば就職活動においても大きな武器になるでしょう。もっとも、合格率は毎年15～17パーセントと、決して簡単な試験ではありません。ただ、そこで躊躇する必要はありません。毎年明海大学不動産学部からたくさんの学生がこの試験に合格していることも事実です。大学に入学後、ゼロから勉強を始めて見事に合格を勝ち取っているのです。しっかりと対策を立てて継続的に勉強をすることができれば合格することのできる試験なのです。

明海大学では、学生の皆さんに宅建試験のために様々な講義を用意し、勉強をするための設備、仕組みは整っています。学生の皆さんが宅建試験に向けた勉強に心から打ちこむこと、「自分は必ず合格するんだ」という強い気持ちを持つことができれば、必ず合格することができると言えます。

大学生活でまず打ち込んでほしいこと、それは本気で宅建試験の合格を目指し、その目標に向かって精一杯勉強してみて欲しいのです。その経験は、宅建試験という不動産業界のパスポートともいえる強力な国家試験を得るということにとどまらない、人生の大きな財産となるでしょう。ぜひ、一緒に宅建試験の合格に向けて努力しましょう。

明海大学不動産学部非常勤講師
蒲原 茂明



合格するには、どうやって勉強したらよいのか、そこまでの疑問がわけば合格への道は見えたと同然です。あらゆる試験において合格するための近道は、合格した人がやってきたことを真似することです。本学部にはたくさんの合格者がいます。その合格者の成功体験をたくさん読んで、聞いて自分でも実践することができれば、合格への道は見えてきます。この合格体験記の先輩たちの事例をよく読みこみ、たくさんのチャレンジをしてみてください。本年もたくさん本気で挑戦する学生の姿を見たいと思います。

担当教員からのメッセージ

～継続は力なり！～

■不動産取引のプロ、「宅地建物取引士」

「宅地建物取引士」(以下、「宅建士」といいます。)とは、不動産取引の専門家であることを証明する国家資格です。そして、宅建士の資格を取得するための試験が宅地建物取引士試験です。宅建士として仕事をするには、宅建試験に合格するだけでは、宅建士として仕事を行うことはできません。受験地の都道府県知事の登録を受けなければなりません。登録するには、2年以上の実務経験を有し、もしくはこれに代わる登録実務講習を修了していることが必要です。そして、宅建士証の交付を受けた者が宅建士として、不動産の売買や賃貸物件の

あっせんをする際、宅建士にしかできない独占業務ができるようになります。不動産などの取引経験がないお客様が不当な損害を被ることがないように、重要事項の説明などを行うことが宅建士にしかできない独占業務です。宅建士にしかできない独占業務は3つあります。

1. 「重要事項の説明」

不動産取引における損害を防ぐために、宅建士は不動産の買主・借主に必要な情報を伝えることです。このことを宅建業法で「重要事項の説明」と言います。

2. 「重要事項説明書(35条書面)への記名」

重要事項の説明は法律やライフラインなど、多岐にわたるため口頭の説明で完結するのは難しく、重要事項を伝えたことを証明するために「重要事項説明書(35条書面)」の作成および交付が必要になります。この「重要事項説明書」には宅建士自らの記名が必要になります。

3. 「契約書(37条書面)への記名」

また、実際に行った取引について、契約に関わる重要な部分が書かれた「契約書(37条書面)」という書面も必要になります。契約に関するトラブルを防ぐ上で重要な書面であり、こちらの書面への記名も宅建士でなければ行えません。

したがって、宅建士がいなければ、不動産取引は成り立ちません。その希少性のある国家資格の宅建士の土台となる知識について、専門的に研究、学ぶことができる日本で唯一の不動産学部、それが明海大学不動産学部なのです。

明海大学不動産学部非常勤講師

片川 卓也



■宅建士試験合格のために

【宅建本試験合格の 5 つの鉄則】

鉄則 1. 「今年絶対に合格する」と心に決める！

鉄則 2. 今、この瞬間から学習を始める！

鉄則 3. 「暗記」と「理解」のバランスが重要！

鉄則 4. 範囲を広げすぎず、基本をしっかりと身に付ける！

鉄則 5. 「継続は力なり」最後まで諦めない！

この「5つの鉄則」の内容は、あたりまえのように見えるかもしれませんが、しかしながら、多くの受験生はこの鉄則を守る事が出来ず合格を逃してしまいます。合格をするためにはこの「5つの鉄則」を実行し、継続することが重要なのです。

1と2の鉄則については、今、この瞬間に、合格を決意し、学習をスタートしてください。鉄則3では、丸暗記は禁物です。「暗記」に頼っていては応用力は付きません。講義を「理解」しただけでは、自力で試験問題を解くことはできません。そのバランスが重要なのです。「暗記」と「理解」の両方の学習ができてこそ、知識が定着し成績も上昇するのです。鉄則4は、本試験直前期に不安となったときに忘れがちになりますが、そういう時こそ学習の範囲を広げすぎず、基本に忠実に学習を進めることこそ重要なのです。最後に最も重要なのは、決意し、実行したことを継続することです。この鉄則を守れるようにサポートするのが我々教員の役割です。

■なりたい自分になろう！

宅建士試験に合格したら人生が変わります。どう変わるかは人それぞれですが、就職が決まる人、独立開業をする人、さらなるスキルアップを目指し別の資格にチャレンジする人等、この宅建士試験に合格したことが自信に繋がり人生を変えるのです。今この瞬間が、皆さまの人生を変えるきっかけになれば担当教員としてこの上ない喜びです。

不動産鑑定士合格体験記

目次

不動産学研究科 修士2年生

熊野 由都..... 18

※執筆者は明海大学大学院不動産学研究科の在学者で、学年は合格時のものである。

不動産鑑定士＝四次元で不動産を捉える専門家

私の現在関心事は「不動産の範囲ってどこまでだろう？」です。

修士2年 熊野 由都

明海大学入学前は不動産の範囲＝目視できるハードとしての不動産という認識でしたが、大学で勉強するにつれて目視できない不動産の内部はもちろん、その不動産の利用や管理などのソフト面やその不動産を利用する人々さえも不動産を構成する一部になり得るので、不動産の範囲はハードという物理的範囲を超えて広域的なものになることを学び、そこで面白さと難しさ、不動産の可能性を知り、不動産を広く捉える専門家である不動産鑑定士に興味を持ちました。



不動産鑑定士は公図や建物図面等の二次元の情報はもちろん、実際の不動産とその周辺環境等の三次元の情報、さらには今までどのように利用され、今後どのように利用されていくかという時間軸を考えた四次元的な情報から不動産を捉える必要があるため極めて高い専門性が求められます。そのため試験自体のレベルも高く合格に向けて工夫が必要になるため、私が不動産鑑定士試験を終えて伝えたいことを以下に記し、皆さんの勉強の一助になればと思います。

I. 短答式試験(1次試験)について

不動産鑑定士試験は大きく短答式試験と論文式試験に分けられます。

短答式試験はマークシートで行う五肢択一 40 問で行政法規と鑑定評価に関する理論(以下「鑑定理論」)の二つがあり、概ね7割以上取得することができれば合格できると言われています。

短答式試験は他のマークシート試験と同じような勉強方法で良いかと思いますが、行政法規は広範囲から出題されるので高得点を狙うのは難しいです。反対に鑑定理論は出題される範囲が行政法規よりも広くはなく、過去問と似たような問題が出題されやすく、さらには論文式試験でも出題されます。そのため、得点目安としては行政法規 6.5 割、鑑定理論 7.5 ～ 8 割を意識していただければ安定して合格することができ、論文式試験にも繋げることができます。

II. 論文式試験(2次試験)について

論文式試験は名の通り文章で答える必要があるため極めて高度な理解と暗記が求められ、それを文章として表現する必要があります。また、教養科目として「民法」「経済学」「会計学」の3科目と「鑑定理論」(2回)、「鑑定演習」の2科目を3日間(午前1科目、午後1科目)に分けて行うため司法試験、公認会計士試験と並んで三大国家資格と呼ばれています。

- ① 民法はどのような点が問題になっていてどのような結論に導くかという流れで解答するため過去問や答練の解答例などから解答パターンを掴むことが大切です。また、暗記も重要なため、自分の考えとは異なるような論証例や論証で使われている条文の趣旨や成立

要件などをまとめておくことで効率よく勉強できるかと思います。

- ② 経済学はミクロ経済学とマクロ経済学に分けられ、他の科目と比べて暗記する量が少なく理解の割合が大きくなっています。そのため他の科目よりは費やす時間は短くなるかと思いますが、本試験では初めて見るような問題が出題されることがあり（特にマクロ経済学）、精度を高めても得点に繋がらなかったりするので、ミクロ経済学はある程度仕上げてマクロ経済学は程々にする等ある程度割り切って勉強した方が良いです。
- ③ 会計学は暗記の量が多くなっていますが、穴埋め問題や小問が多く他の教養科目は解答用紙4枚配られるのに対し、会計学は2枚であるため、アウトプットの練習はそこまで必要ないので、自分含めて直前期に一気に頭に詰め込んだという合格者の方が多いです。
- ④ 鑑定理論は基準の暗記をベースに問題を解きながら出題された箇所の暗記の精度を上げていくことで徐々に論文試験における基準の重要度の濃淡が見えるようになってくるので、これを意識して取り組むと効率よく学習ができるかと思います。
- ⑤ 鑑定演習は電卓を用いて実際に鑑定評価額を求めるという内容ですが、解き方を覚えれば短い期間で高得点が狙える科目で、暗記等もそこまで必要ないです。そのため、早い段階から取り組んで得意科目にして頂きたいです。

不動産鑑定士試験は三大国家資格というだけあって長い期間勉強して合格を勝ち取るものであるため、高い山の頂を目指す登山に似ています。そして、様々な登山ルートがあるように合格するためのアプローチは人それぞれであるため、私の勉強方法も一参考程度に留め、自分に合った勉強方法を見つけてください。自分に合った勉強方法はまさに“武器”になり得ます。

Ⅲ. 勉強に当たって意識していたこと

よく耳にするのが1日〇時間勉強するというような勉強時間固定型ですが、私には合いませんでした。理由として、他の都合がある日だと目標の勉強時間に到達できないということが多々あり、その都度「なぜ目標時間までやらなかったのか」と自責の念になり、また目標時間までやったとしても「まだ勉強することができるのではないか」と不安になる性格であったためです。そこで私がやった方法は終了時間固定型です。終了時間固定型は〇時に勉強を終わらせるという方法で、勉強時間ではなく設定した終了時間にその日の疲労度が自分で納得できる量だけ勉強をするというもので、その日の都合を考慮することができます。また、終了時間固定型であれば翌日の勉強にも悪影響が出にくく、慣れてきたら自然と集中している時間が長くなったり勉強を始める時間が早くなったりと無理なく合格に向けた受験環境を整えることができます。この終了時間固定型と2.で紹介した勉強方法で本試験に向けて勉強を続けました。

また不動産鑑定士試験は①適切な勉強の質を②適切な量、③バランスよくこなすことが重要ですが、私が一番意識していたのは③のバランスです。バランスが問われる点を列挙すれば1. 勉強する時間としない時間、2. 複数ある科目の各々の勉強時間、3. 一つの科目内でのイントットとアウトプットの時間、4. 丁寧に勉強する箇所とさっと勉強する箇所があります。

勉強の質に関しては予備校などを利用することで適切な質を保つことができます。勉強の量についてはご自身の都合によって左右されることになるかとは思いますが、この時に何も考えずにいると膨大な時間を費やすこととなり、いくら時間があれど手が回らなくなります。

そのため、完璧を追い求めず、ある程度割り切って満遍なく勉強することを意識しました。

Ⅳ. 試験勉強で一番辛かったこと

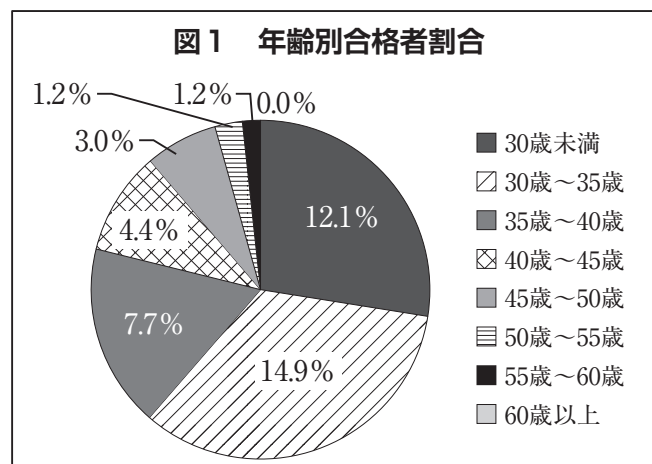
不動産鑑定士試験に向けて勉強する中で一番辛かったことは特に勉強はじめての頃から中盤期にかけて自分が今どの程度合格に近づいているのかという体感が得られなかったことです。論文式試験は書く試験であるため、まずインプットの作業から次第にアウトプットに移り、最終的にはこの二つが循環するような勉強になるのですが、インプットの量が膨大で、初めのうちは、見て、覚えて、忘れて、見てを繰り返すことになります。そして、毎回一進一退を繰り返すと自分がどれだけ勉強したかが分からなくなります。この自分が合格に近づいているのかどうかかわからないまま勉強を続けるのは本当に大変な経験でした。また、自分の時は一緒に鑑定士試験を目指すという仲間がいなかったため孤独感がより負担となってしまう、勉強にしっかり向き合えていませんでした。そのため自分がどれくらい勉強をしたかが分かるように記録に残しておくことが重要になります。さらに、令和7年度からは不動産鑑定士向けのコースができ、同じ目標を持つ仲間が集まりやすい環境になるので、その状態で勉強するのは大きなアドバンテージになり得ます。ぜひこの機会を活かして仲間と共に合格を勝ち取って頂きたいです。

Ⅴ. これから鑑定士試験合格を目指す方に伝えたいこと

不動産鑑定士試験の合格率として令和6年度は短答式試験36.2%、論文式試験17.4%となっているため、両者かけ合わせて約6.3%となりますが、年齢別合格者割合(図1)として30歳未満の場合短答式試験は41.8%、論文式試験は29.0%となり、両者かけ合わせて約12.1%となるため、年代別で見たときに皆さんはボリュームゾーンに位置し、決して合格する可能性が果てしなく低いというのではないということが分かります。また、大学生と社会人では使える時間が大学生の方が多から有利という話もありますが、試験の直前期になると社会人の方も長期の休みをとって望む人が多いので大きな違いにはならないかと思います。しかし、大学生は社会人とは違い試験後も時間の融通が利きやすいので試験後のご褒美を用意できるのでそれをモチベーションにするのも良いかと思います。私が試験をしてきた中で10:0の割合で取り組んだものは一度もありませんでした。勉強する時間についてもそうです。使えるすべての時間を勉強に充てなくては合格できないということはありません。程よく肩の力を抜いて休むことも大切です。

また、試験勉強で身なりや肌が荒れてしまうという話を聞きますが、それは努力を積み重ねた人でないと体験することのできないものであるのです、悲観せず自分を褒めてあげてください。

諦めず挑戦し続ければきっと報われる日がくるので自分を信じて頑張ってください。皆さんの嬉しい報告が聞けることを切に願っています。



宅地建物取引士合格体験記

目次

1年生

石塚 仁美	22
今井 理夢	23
小幡 祐紀	24
嘉数 遥夢	25
金子 文子	26
川口 莉奈	27
鈴木 聖梧	28
津田 脩麿	29
長谷部 美羽	30
日景 蘭	31
藤井 健斗	32
森 佑樹	33
鶴巻 晃之助	34

2年生

家山 正治郎	36
及川 史華	38
大塚 彩水	39
小幡 颯士	40
木谷 信汰	41
倉島 理絵	42
監物 夕夏	43
古室 晴哉	44
鈴木 千璃	45
田中 大稀	46

藤田 爽獅	47
三代 春乃	48
宮本 京	49
成島 涼一郎	50

3年生

天野 紫咲	51
岡田 楓矢	54
常木 翔太	55
豊澤 風音	56
湯川 愛里	57

4年生

橋田 大地	58
-------	----

※執筆者はすべて明海大学不動産学部不動産学科の在学者で、学年は合格時のものである。

己に克つ

1年 石塚 仁美

自分は高校の頃から勉強に力を入れており、どんなに辛い時でも自分に負けずに乗り越えてきました。大学でも変わらず勉強に力を入れているが、宅建士は覚える量が多く、この量で自分は今年中に受かるのかと不安に思いました。



◆夏休み中の模試◆

夏休み入る前にある程度知識を覚えていたので、そこまで力を入れなくても点数は取れるかなと思い、8月後半に初めて宅建士の模試を受けました。ですが、結果は30前半というほぼ不合格の点数を取ってしまいました。このままではまずいと思い、模試を受けた日から3時間以上勉強をしました。しかし、自分の何が足りないのかを理解しておらず、次の模試でも結果はほぼ不合格の点数でした。

◆9月から10月までの猛勉強◆

9月入ってから、毎日3時間以上勉強していましたが、なかなか合格点にたどり着かない。頑張っても上手くいかず、絶望に陥っていました。一体何をしたら伸びるのか、ひたすら悩みましたが、そこで手を付けたのが宅建業法でした。模試を受けた日から勉強していたのは権利関係、法令上の制限、税・その他ばかりをやっていたので、もしかしたら一番重要な宅建業法を忘れてしまい、そのせいで点数も伸びないのかと9月中盤になってやっとわかりました。次の模試までに宅建業法を完璧に覚えるまで猛勉強をし、次の模試で40点超えまで伸ばすことができました。自分の何が足りないのかを理解すれば、ここまで大きく変えることができるのだと知り、繰り返し勉強をしました。その結果、本試験でも40点超を出すことができました。

◆鍵となるのはこれだ！◆

宅建士で合格するために、最初にやっておくべき項目は宅建業法です。宅建業法の知識を覚えているか覚えていないかで大きく差が出ます。権利関係等を先にやるということはないでください。宅建業法以外の3つの項目はほぼ満点取れないようになっています。でも、宅建業法は満点取れる可能性はあります。他の項目とは違い、覚えやすいものがたくさんあるので、宅建業法を最優先に行ってください。あとは、己に克つことです。自分に弱い所があっても、諦めず強くなることが大事です。勉強をしている時に落ち込む場面もありますが、自分は合格するという強い意志を持ち、最後まで乗り越えましょう。この宅建試験は、頭良し悪し関係なく、努力したもん勝ちです。

最後まで諦めないで

1年 今井 理夢

私は宅地建物取引士の資格取得を目指し、不動産学部に入學しました。入学前は、宅建試験は「すごく難しい国家試験」というイメージがあり、大学生のうちに合格できるか不安でした。しかし、先生の話の聞いたり自分で調べてみると、小学4年生でも合格していることを知り、「それなら自分も1年生のうちに合格できるのではないか」と自信ができました。勉強が大嫌いな私が合格した勉強方法をお話します。



勉強を始めた頃の苦労

私は小中高とあまり勉強をしてこなかったため、勉強の習慣がなく、入学当初は机に分厚い教科書を広げて長時間勉強しようとしたのですが、それがとても苦痛で継続できませんでした。そのため、夏休みまでは授業以外の勉強時間を、通学中の電車内に絞り、一日あたり1時間20分程度(片道40分)だけにしました。その時間は、教科書を何度も読み直して基礎知識を理解し、理解できた内容をスマホアプリで問題演習するという方法を繰り返しました。それだけでも基礎知識は身につき、テストの結果も良くなりました。

モチベーション維持の工夫

しかし、夏休みを迎えたあたりからモチベーションが下がり、サボりがちになってしまいました。そんな時、学年1位の成績の友達と出会い、一緒に勉強するようになりました。それまでは「1人で自分の小さな目標と戦う」ことしかできませんでしたが、自分より成績の良い友達が目標となり、大きな刺激を受けました。その友達と一緒に勉強することで、焦りも感じましたが、その焦りがモチベーションの維持に繋がりました。

「自分より下の人と比べて安心するのではなく、自分より上の人と比べて悔しがること」が、成長に繋がると実感しました。

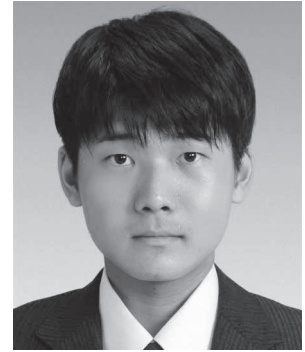
最後まで諦めないことの大切さ

さらにもう1つ、勉強する上で大切なことは、最後まで諦めないことです。私は最後の模試でも合格ラインに届いておらず、不安な箇所がたくさんありましたが、残り2日間で「死ぬ気」で勉強し、試験本番でも時間ギリギリまで見直しを続けました。その結果、過去最高得点の43点で合格することができました。30点台でも合格点ギリギリでも運でもなんでも合格出来ればそれでいいので絶対に最後の一秒まで諦めないでください。

宅建は簡単な試験ではありませんが諦めなければ私のように勉強嫌いな人でも誰でも合格できるので最後まで頑張ってください。これを読んだ人が合格出来ることを願っています。

宅建合格への道：1年生からの挑戦が未来を変える

1年 小幡 祐紀



「宅建は2年生からでいいや」なんて、甘く考えていませんか？ もちろん、2年生からでも合格することは可能です。しかし、1年生から本格的に勉強を始めることで、大きなメリットを手にすることができます。

1. なぜ1年生から始めるべきなのか？

まず、大学1年生は比較的自由な時間が多く、他のことに縛られることなく勉強に集中できます。この時間的な余裕を最大限に活用することで、効率的に学習を進めることができます。また、早めに宅建に合格すれば、2年生以降は他の難関資格の取得や留学、インターンシップなど、自分のやりたいことに時間を充てることができます。これは、自分の将来に対して大きな自信となり、目標達成への原動力となるだけでなく、効率的な学習方法を身につけることで、他の資格や授業での勉強の仕方も効率的に行うことができるでしょう。

2. 人生設計と宅建合格の関係

人生設計を立てることは大切です。例えば「1年で宅建に受かり、2年から他の資格に挑戦したい」というように、将来のスケジュールを固めることで、必死感が出て合格への道が見えてきます。大切なのは、目の前の目標に集中することです。まずは、1年間という限られた時間で、宅建合格を目指しましょう。

もちろん、1年で合格できなくても焦る必要はありません。計画を立て直し、次のステップへと進めば良いのです。重要なのは、常に目標に向かって努力を続けることです。

3. 効率的な勉強法

宅建の勉強は、暗記だけでなく、ある程度の理解も必要です。条文を丸暗記するのではなく、条文の意味を理解し、具体的な事例に当てはめて考えるようにしましょう。また、私が実践していた勉強法は、最初のうちは無理をしてでも勉強時間を確保することでした。夏休み後は、模試とオープンカレッジ以外の時間はほとんど勉強していませんでしたが、それでも、合格することができました。

また、友達との付き合いも大切ですが、無理に友達を作ろうとする必要はありません。「友達はいた方がいい」「友達がいると切磋琢磨できる」という周囲の意見に振り回されることなく、自分にとって本当に合っている勉強法を見つけましょう。

私も友達がいなのですが合格したので、友達を作らなくて大丈夫です。

まとめ

宅建の合格は決して簡単なことではありません。しかし、1年生から計画的に勉強を進め、効率的な学習方法を実践すれば、必ず合格することができます。「宅建は2年生からでいいや」という考えは捨て、今すぐ行動を始めましょう。あなたの未来は、あなたの努力次第で大きく変わります。

挑戦することを恐れず、未来への一步を踏み出しましょう！

宅建合格体験記

1年 嘉数 遥夢



僕は無事、令和6年度宅地建物取引士試験に合格することができました。今回はこの合格までにどのような勉強方法を行なったのか、またその時の心情や勉強を始めた時期など、細かくお伝えできたらと思います。

まず、僕はこの学校に不動産鑑定士の資格を取りたいと思い、この大学に入学しました。不動産鑑定士という試験は国家資格の中でも、最難関国家資格の一つと言われており、この資格を合格するまでの勉強時間は、およそ3000時間と言われております。それに比べて宅地建物取引士試験に必要な勉強時間は、およそ300時間らしいです。そして入学前の意気込みとしては、‘宅建は一年生で取れて当たり前だ、一年で取れなければ鑑定士なんて取れるはずがない’。そんな思いでした。学校が始まり、初めて宅建の勉強を行いました。自分では学んだことのない分野で、意外に量も多く、実務をしないと理解がしにくい内容のものもあり、これはなめてかかってはいけないと入学前の自分を反省し、勉強に取り組もうと思いました。

僕が実際にした宅建の勉強ですが、自主学習を始めたのは一ヶ月前くらいで、それまでは、学校での課題をしっかりとこなすことと、オープンカレッジで模試を受けて、その復習をしていました。なんだ、全然していないじゃないか、と思った人も多いかもしれませんが、実は違うんです。(笑) この学校の課題は本当に量が多くて、友達のほとんどは課題をやることも諦めモードになっている人が多かった気がします。しかし、逆に言えばその課題をしっかりとこなせば、宅建は非常に合格の見込みがあるということです。先生たちも意欲がすごくモチベーションの保持増進にもなり、本当に環境が整っており、あとは自分次第で感じて、いい大学だと思いました。挫折と言ったらなんですけども、模試の点数が10月に入っても一度も合格点を取ることができずにいて少し焦っていました。そんな時に僕は、試験までに『やることリスト』をしっかりと決め、最低でもこのリストのことはやり遂げてから次の日を迎える、ということに取り組みました。その日から、もうやることは決まっているので、焦ることもなくなり、一層集中して試験に向けての勉強ができました。この勉強を続けていると、最後の模試では合格点を取ることができ、自信を持って本番に臨むことができました。みなさん、自信を持つことが大事ですよ！！ 諦めないで頑張ってください。

宅建勉強大切なこと 4 選

1年 金子 文子

私が入学してから約半年、宅建勉強で大切だと実感したことをお伝えします。皆様の宅建勉強の一助となれば幸いです。



1. あるものを全て活用する

明海大学には宅建合格に向けた多くのプログラムがあるのをご存知でしょうか？例えば、オープンカレッジや土曜模試、夏期セミナーです。特に土曜模試は有料ですが強くお勧めします。週6日の通学は大変ですが、半年の辛抱だと思って頑張ってください。私の場合は、演習＋復習を反復したことで知識の定着が早まりました。

スチューデントルームや図書館等の自習室もいくつかあります。私は図書館が好きでした。

また、先生方は、よほど忙しいタイミングでなければ、質問や相談にも快く応じてくれます。(中村先生には19時過ぎまで対応していただいたこともありました。心より感謝申し上げます。)

この恵まれた環境を是非フル活用してください。「やらぬ後悔よりやる後悔」だと思います。

2. 宅建仲間(同志)を作る

これは、歴代の合格した先輩方も言っていますが、利点は主に2つあります。

1つは、やる気の維持がしやすいことです。時には友人と一緒に勉強するのも気分転換になるし、模試等の点数を競い合うのもいいかもしれません。

2つ目は、教え合い学習ができることです。人に教えるには知識の言語化が必要なので、理解を深め知識をアウトプットする良い機会になります。

私の場合、覚え方のテンポ感が合う友人がいたので、楽しんで教え合いができたことが良かったと思っています。友人には今でも感謝しかありません。

3. 得意分野を作る

宅建試験には毎年確実に出題される論点があります。最初から4分野全てを完璧に覚えるのは大変なので、とりあえず教科書の1単元を完璧にするつもりで勉強してみてください。それで確実に解けるようになったら、次の単元も同じ感覚でやってみましょう。このプロセスには「勉強してほぼ完璧に解ける分野ができた」という成功体験を積むことで、自信をつけつつ勉強スタイルを確立できるという狙いがあります。私の場合、37条書面の範囲を固めたことで、他の分野(苦手な報酬額計算など)の勉強も好調になりました。

4. 体調管理

最終的に大事なものはこれです。私は9月頃に体調を崩して、その時は本当に焦りました。無理は禁物です。

以上です。これから宅建に挑戦する方は、ぜひ努力を惜しまず頑張ってください！

宅建士試験への道のり

1年 川口 莉奈

私は大学1年次に宅建士試験に合格することができました。私の学習の大きな支えとなったのが、オープンカレッジへの参加でした。オープンカレッジの講座では、授業で一度習っただけでは理解しきれない部分を、分かりやすくもう一度教えてくれました。特に毎週土曜日に行われる模試は、自分の実力を定期的に確認する良い機会となり、自分の弱点を把握し、それに対する対策を練ることができたのが非常に効果的でした。



まず私は授業を受けた後には必ずその分野の過去問を解き、理解を定着させるよう心がけました。この「授業→復習→模試」のルーティンを繰り返すことで、徐々に実力がついていきました。勉強方法としては、問題集を何度も繰り返し解くことが最も効果的でした。繰り返し問題を解くことで、試験でよく出るひっかけ問題のパターンを把握でき、本試験でも冷静に対処することができました。

10月に入ってから、毎日不動産棟に残って勉強をしてから帰るようになりました。過去12年分の過去問や今まで受けてきた模試やテストをひたすら解き続けました。勉強を続けていく中で、いつも間違えてしまう問題や不安なところはノートに書き出し、試験前に見返せるような「ポイントノート」を作成しました。

なによりも試験を乗り越えられたのは一緒に勉強してきた友達の存在大きいです。お互いに励まし合い、目標に向かって努力し続けることができました。特に、勉強に行き詰まりそうな時や疲れた時でも、友達が頑張っている姿を見ることで、自分も諦めずに頑張ろうという気持ちになれました。友達と一緒に勉強することで、互いにわからない部分を補完し合うことができました。実際に、友達と一緒に確認していた内容が本試験に2問出題されました。試験が近づくにつれ、緊張や不安も高まりましたが、本試験までお互いを励まし合い、合格に向けてモチベーションを保つことができました。

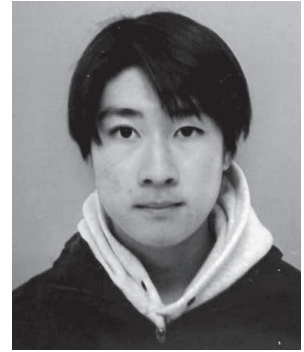
試験当日で大事なことは見直しです。私は見直しで1点上がりました。

なかなか点数が伸びず、悩んで何度も心が折れそうになった時期もありましたが、最後まで自分を信じ、諦めずに勉強を続けた結果、無事に合格することができました。最後に、サポートしてくれた先生方、応援してくれた家族、そして一緒に勉強してくれた友達に心から感謝しています。

ここまで読んでいただき、ありがとうございます。受験される皆さん、どうか諦めずに頑張ってください！ 応援しています。

諦めないことの大切さ

1年 鈴木 聖梧



私は、元々不動産関係の仕事に就きたいと考えていて、国内で唯一の不動産学部のある明海大学へ入学しようと考えていました。明海大学の不動産学部について色々と調べていく中で、宅地建物取引士の資格を知りました。これまで私はあまり勉強してこなかったので、合格率 17%と聞いたときは、とても自分にできるかどうか心配になりました。しかし、オープンキャンパスに行った際に、話を聞いていると、先生方がいつでも手厚く対応してくれて合格することができたという声があり、将来に役立てる資格を取ることができると考え明海大学に入学しました。

4月から授業があり、最初から資格に向けての講義がありました。最初からとても難しく一年でとるのはキツイかなと思っていましたが、地道に復習を重ねていました。ですが、それでも少しキツかったので、講座にあるオープンカレッジに参加しました。そこで、講義で習ったことをもう1回勉強し、復習と共に知識を深めていきました。最初のうちは理解出来たりしてとても楽しく勉強することが出来ましたが、途中から訳が分からないような内容だったりして少しツライ時期がありましたが、この一年で受かるという強い気持ちで何とか乗り越えてきました。また、夏休みが1ヶ月半近くありますが、途中に夏季セミナーというのがあり、そこで実力を大きく伸ばすことが出来ます。また、オープンカレッジの講座も毎週土曜に確認テストがあり、自分がどのようにできていないのかを確認することが出来、早めに弱点に気づき修正をすることが出来ます。これらをやすることで、本試験の模試をやって見るとさらに弱点が分かります。1つずつ克服していくことで、ある時から一定の点数をキープすることが出来ます。夏入るまではひたすら基礎を学習することは地道でとてもキツイことですが、受かりたいという気持ちを持って望むことが大事なことで、就職や将来に絶対に生きてくると思っています。なので、来年度はこれを読んでいる人が今度は書いてある立場であることを願っています。

計画性が大事

1年 津田 脩磨



私が宅建を合格した方法は、自分を追い込むという方法です。これから私が明海大学に入学してから宅建に合格するまでの道のりを書いていきたいと思います。

まず私は、1年生のうちに宅建を取ろうと心に決めていました。なので、オープンカレッジに参加し、合格に向けて真面目に勉強していました。ですが、夏休みになると、一気にやる気を失ってしまい、ほとんど勉強をせずに夏休みを終えてしまいました。それにより、取引演習やオープンカレッジの授業について行けなくなり、その年の本試験に合格することを諦めてしまいました。そして、期末試験になり、まだ夏休み前までの宅建に関する知識が残っていると思っていた私は、ほとんど対策をせずに試験に臨みました。その結果、取引演習の単位を落としてしまい、進級することができませんでした。

この状況を少しでも挽回するために、絶対に次の本試験を合格しようと決めました。とはいっても、あまり早く勉強を始めても忘れてしまうだろうと思い、前学期はアルバイトに時間を注いでいました。本格的に勉強を始めたのは、夏休みからです。二日に一度、1時間ほど勉強をしました。そして夏休みが終わり本試験の一ヶ月半前になり、かなり追い込まれてきました。この時点での模試試験の点数は、20点くらいでした。そこからは、不動産棟の自習室や図書館に通うようになり、空いている時間のほとんどを勉強に注ぎました。その際の勉強方法は、とにかく中村先生のテキストと問題集を解いていました。私の周りにはあまり本気で宅建試験に合格しようと思っている人がいなく、いろいろな不安がありましたが、取引演習Aの再履修の授業で、先生がわからないところや大事な部分を丁寧に教えてくれたので、すごく助かりました。その結果、無事に合格することができました。

私は、なんとか合格することができましたが、やはり計画的に勉強を進めることが大事だと思います。本試験の前日や当日に苦手な部分を見直すことは特に重要だと感じました。

仲間と共に

1年 長谷部 美羽



この度、私は幸いにも宅地建物取引士に合格できました。私は大学一年生の入学後から勉強を始めましたが、今回のこのような結果は、やはり周りの人たちの協力ありきだと思っており感謝の気持ちでいっぱいです。

これから、私が合格するまでの道のりの中で大切だったなと思うことを、いくつか書いてみたいと思います。宅地建物取引士を目指す皆様の参考になれば幸いです。

1. 勉強方法

夏休み前まではプラスで何かをするというよりは、取引演習の授業をしっかり聞いて課題に取り組むだけでOKです。ただ、自分なりに授業中に取ったノートを見返してまとめたりするとより内容が頭に入っていると思います。私はノートが授業を受けながらでは間に合わなかったので予習もかねて事前により授業で書き足していました。

課題も取り組むだけでもいいですが間違えた問題をできるまで取り組むまでするとなお良いと思います。その時は間違えた問題の解説を読んでそれをきちんと書き起こしたり、解説やポイントを書き起こす時は自分なりの言葉でまとめたりするのがおすすめです。

夏休み中～夏休み後は短くてもいいので出来るだけ毎日勉強しましょう。ご参考程度に私の勉強方法をご紹介します。まず一年分の過去問を解いて間違えた問題の分野を把握します。次にその分野の知識が曖昧なところを「スッキリわかる」を見ながら自分なりにノートにまとめます。そのあとその分野の過去問を全問正解できるようになるまでひたすら解きます。この時間違えるたびにまとめたノートを確認して書き足していきます。これを繰り返していくと理解しながら過去問が解けるようになるので初見問題が来た時にも対応することができます。一年分の過去問を解くというのは一回に時間がかかるのでやりすぎはよくないですが、苦手を把握できると共に点数が出てモチベーションにもつながるのでおすすめです。

また、隙間時間を見つけてアプリで過去問を解いたり、中村喜久夫先生の動画を見たりしていました。

勉強する場所は不動産棟の談話室やスチューデントルームで勉強すると先生がよく見に来てくれるので質問できる他、参考書も自由に使うことができるのでおすすめです。

まとめると夏休み前までは、参考書を買って授業とは別で勉強したりするよりかは、授業や課題にしっかり取り組み、夏休み中～夏休み後に本格的に勉強を始めるというやりかたでした。

2. 仲間づくり

勉強方法など長々語ってきましたが私が一番言いたいことは、「一緒に宅建合格を目指してくれる仲間を作しましょう」ということです。私が宅建を合格できたのは毎日不動産棟の談話室やゼミ室に集まって勉強してくれた友達や先輩方、たくさん相談に乗ってくれた先生方があってのことです。勉強方法の共有や息抜きのコミュニケーション、一緒に頑張ろうと切磋琢磨したりつらい時にはお互い支えあったりなどたくさん助けられました。

最後になりますが、合格に必要なのは勉強もちろんですが、「一緒に勉強してくれる仲間づくり」が一番だと思います。皆様も、頑張ってください。

宅建合格レシピ

1年 日景 蘭

振り返ると、半年間とても大変でした。環境が変わり、生活に慣れること、人間関係、自分との闘いなど様々ありました。そんな半年間の勉強で宅建に合格するにあたって、大切にしていたことをほんの一部書きました。少しでも読んで頂いた方の励みになれば幸いです。



1. 勉強方法

① 過去問の解き方

これは本当に人それぞれだと思いますが、私が直前になって後悔したことは、間違えた問題に印をつけなかったことです。何回も解くと思っていましたが、正直課題以外ではほとんど解いていません。苦手分野と間違えた問題を繰り返すだけで足りるので印や付箋などを使うことをおすすめします。また、1問解いた直後に解答を見ることもおすすめです。時間が経っていない分、注目する部分や大切な部分に分かりやすいからです。私は正誤関係なく、解説の大切な部分を覚えながら、一目でわかるように蛍光ペンを引いていました。

② 実践する

模試や学内テストなどで本番と同じような体験を積み重ねることがよかったです。お金がかかりますが、私はオープンカレッジに参加していました。カレッジの内容は、平日に授業の復習（後半は予習でした）を行い、土曜日に平日の授業の実践として模試があります。慣れない大学生活で週6日間の通学と長い授業はとってもしんどいですが、模試に参加していない人と比べると実践力の差を感じられました。特に後半戦は本番同様50問の模試になるため、自分の傾向や足りない点数などが明確化できたので1年生のうちに合格したい方は模試だけでも参加することを強くおすすめします。

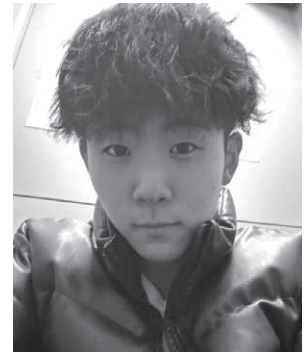
2. 周囲の友人

これは口を揃えてみんな言いますが、(過去の私は信じていませんでした) 自分のモチベーション維持にも、継続して勉強するにも友人の存在は大切でした。教え合ったり、先生の真似をしながら勉強したり、問題自体にツッコミをいれながら勉強をするのも楽しくでき、頭に残ります。模試でその問題が出たときにクスッと笑え、緊張をほぐすこともできます。また、友人の問題用紙をみると、解き方や大切にしているポイントが全く違うので、見てみると意外な発見があるかもしれません。

まだまだ書き足りませんが、一番大切なのは合格するという強い気持ち、それに伴う努力、自分を信じる力です。先生方がよく言うと思いますが、本当にその通りだと思います。身の周りには誘惑がたくさんありますが、気分転換しながら頑張ってください！

～夏休み～

1年 藤井 健斗



私はこの宅建合格で思ったことは諦めない事が大事だなと思った。元々点数が高い方ではなくなんなら夏休み入る前は権利 3/24 点、業法 12/30 で低い方でした。

このままだと確定で落ちるじゃんと思って夏休みの約 1 ヶ月半の期間は 1 日最低 3 時間は勉強を行い、自分がやろうと思った所まで終わったら遊びに行っていました。夏休みの期間は主に宅建業法を中心に行い、権利分野は借地借家法だけ完璧にしようと思って取り組んでいました。夏休みは夏期講習や、オープンカレッジがちょくちょく入っていたからそれは行くようにしていました。夏休みの期間はそういう生活をずっと繰り返していました。

しかし、点数が伸びてきている手応えがあんまりなく、やってられるかと思っていた時期もあったが、友達が頑張っている姿を見てやるしかないなと思いやり続けた。すると、夏休み終わりくらいから徐々に点数が伸びていきました。宅建業法が大体 18/20 以上になったくらいに宅建業法に手をつけるのはやめて権利分野と法令上の制限を中心に行っていました。授業のおかげか法令上の制限は何となく点数が高かったです。権利は確実に出るところがあるのでそこを重点に置いて行い、出ることがあったりなかったりのところは何となくやって重要度で分けていました。それを大体 9 月中旬から 10 月の頭くらいまで行っていました。そこら辺にある問題集とかで権利分野だけとか、法令上の制限だけをやるというのを繰り返していました。

宅建試験本番 15 日前とかになったら宅建業法に戻って見直して、過去問、問題集の 50 問を全部時間計ってきっちり試験と同じように行っていました。毎日 1 つは問題集を解いていました。

私が大事だなと思ったのは、学校で買う過去問題集と予想問題集と土曜日にあるオープンカレッジの模試です。教科書は授業で散々やらされるのでしっかり聞いておけば何となく頭に入ると思います。過去問題集は 12 年分とかの問題なので幅広く出題されているので、しっかりやった方がいいと思いました。ただ、実際の問題は過去問にある問題だけでなく、かなり読み解くのも大変みたいな問題もあるので、そこは土曜の模試と予想問題集をやっておいた方がいいかなと思いました。

宅建試験合格において大切なこと

1年 森 佑樹



宅建試験に合格するための半年の勉強の中で特に大切だと思ったことが3つあります。

1つ目は、自分から進んで新たなことを学んでいくという姿勢を持つことです。大学に入学して初めて不動産について学ぶという人が多いと思います。その中で、初めてで分からないことだらけと苦手意識を持つのではなく、初めて学ぶことだからこそ今までの知識や経験と結びつけて覚えようとするなど、前向きな姿勢を持つことで半年の学習の良いスタートを切ることができると思います。

2つ目は、課題を欠かさずに行うことです。

取引演習の授業の後には、その日学んだ範囲をノートにまとめるという課題があり、その課題をこなすことで単位習得のためにもなり、自分が学んだことをより頭に定着させることができるなど、プラスに働くことが多いと思いました。その際に、先生が重要だといっていたことや自分なりに覚えておいた方が良かったことなどを色を使って分かりやすくするなどの工夫をすることで効率よく覚えることができたと思いました。ただ単位を取るために課題をこなすのではなく、試験勉強の一環にするという気持ちでいるとモチベーションが下がることなく勉強に励めると思います。

3つ目に大切だと思ったことは、利用できるものはなるべく利用するということです。この不動産学部には、オープンカレッジという宅建試験の対策に特化したシステムがあり、普段の授業の知識を宅建でどのように活かせるのか、自分の得意不得意などが可視化でき、宅建試験の問題の傾向やその対策の仕方など非常に多くのことを得ることができるため積極的に利用すべきだと思います。他にも、夏休みに実施される夏季セミナーへの参加は特に大切だと思いました。宅建試験が行われるのは長期休暇明けの10月ごろなので、その直前である8月に行われるこのセミナーで、今まで学習してきたことの成果や、自分が苦手意識を持っている箇所が分かり、直前に何を1番に修正すべきなのか、どういった問題に気をつければ良いのかなどが分かり、宅建合格にとっても近づくと思いました。

これらの3つのことは自分が思う宅建試験合格に必要なものだと思います。しかし、これらがなくても受かる人はいると思います。なので、何よりも自分は受かるという自信を持つことが大事だと思います。また、1年生のうちに受からなかったとしても、それまで学習したことは必ず未来の自分のためになると思います。もし宅建合格を目指すのであれば、学ぶこと1つ1つが自分のためになると思い、時間を無駄にせず後悔のない生活を送ることが大切だと思います。

今夏の酷暑を経ての宅建試験を振り返って

1年 鶴巻 晃之助

〇はじめに

最初に、中村先生をはじめ不動産学部の先生方に心より感謝いたします。試験内容の講義はもちろんのこと、他の講義でもベースとなる考え方やタイムマネジメントへのご協力について多くの先生方にご助力をいただいた結果だと思っています。また、刺激をくれる存在であったクラスメイトにも感謝したいと思います。



8日前の模試で23点でした。4月からの試験勉強法は失敗していたと言えます。そこでどうしたものかと思った挙句、最後の5日間超集中して勉強することに決め、結果的には40時間以上勉強しました。まだ7日残していましたがなぜ5日間かという5日くらいができる限界だと思ったからです。テキストを全ページ読み覚え、過去問を全問解くそれを5日間、試験当日は徹夜しました。結果、正にぎりぎり合格点を取れました。ということで勉強法としては皆様の参考にはならないでしょう。ただ、半年間講義や学習を通じて理解の積み上げがなければ最後の追い込みも効かなかったと思います。また勉強継続のためのメンタルコントロールもとても重要ですが、これについては人それぞれだと思うので他の方に譲りたいと思います。

〇いまの自分が4月の自分にどうアドバイスするか

試験までの経緯は上記の通りで本当に運がよかった結果だったと思うので、偉そうに何かを語るのはちょっと違うと思うので見出しの切り口にしてみます。

まずはせっかく講義を受ける機会があるのでそれを最大限に活かす。例えば宿題については、毎週講義後の課題は、必ず時間を費やすので成果物は後から役に立つように残していく。実際提出期限へのやっつけになるようなこともあるのでそうならないような動機付けを持つためでもある。具合的には毎回の講義後の課題(要約)を1枚でまとめる。A4で書ききれなければA3を使う。とにかく1枚で。箇条書きにせず系統図法やマインドマップのような単語カードを関係性で繋いで整理するイメージで。1枚にするのは後日見直す時に便利だから。問題集課題は、各肢についてテキストを一切見なくても人に説明できるレベルで書き込む。5行10行になるような場合も気にせずに書く。後日過去問を繰り返し解くときに、このストックが大いに役に立つ。そうすると試験直前に使える。問題集は最低3周は解く。また、数字に関することだけを別途まとめる。「2週間以内とか5年以内」など数字に関することだけをひとまとめにする冊子か単語カード等を作る。特に直前の振り返りのときは細かいことを忘れたり、気になったりするので有効。

過去問は問題文でケアレスミスを誘う要素が強い宅建業法は有効かつ試験慣れのためにも必須。権利関係、その他法令、税法はケアレスミスのケアよりも内容自体を知っているかということが問われるのでテキストを中心に固めた方がいい。ピンポイントな点は35条と37条の違いのところ、35条37条でも賃貸と売買の場合で条件が違う場合など項目が

多く複雑なので時間があるうちから準備したい。単純暗記が残らないタイプなので筋立てて覚えるには時間をかけることが必要。

過去問を重点的にやる勉強法は宅建業法には有効だがその他の分野は全網羅ができず機能しないかもしれない。権利関係は特別法の第 11 問から 14 問の範囲を必ず拾い、その他は中村先生の言葉通り「困難を分割」し系統図法で整理して理解しやすくして進めていく。やることに迷ったら無理に覚えようと思わずとにかくテキストを読むか眺める。この方法で進めれば、8 割くらいとれるのではないかと思う。

ギリギリ合格だったので、もしもギリギリ不合格で 25 年に受けるときの自分へのアドバイス。今年のデータや経験から全体的に問題は難化する可能性大。特に 5 問免除は相当に難化する可能性大。それを踏まえた対策を考えること。

○最後に

以上ですが皆様にご参考になる点が少しでもあればと思います。また、皆様が健康で忍耐強く宅建試験に臨むことができますようにと思います。

不合格体験記

2年 家山 正治郎

私は合格体験記よりも不合格体験記の方が身になると考えるため1年生で味わった不合格の要因を主に書いていこうと思います。



要因：主に要因は3つあると考えてます。1つ目は過去問ばかりやっていて予想問題答練をおろそかにしていた点です。読んでくださっている皆さんは聞いたことやこれから聞かと思いますが、宅建は過去問から類似問題が出る事が結構あります。その為過去問やっていればいいじゃんと思い、「過去問＞教科書・テキストの過去問＞模試＞予想問題＞学校のテスト」の優先順位でやっていました。(上記の過去問2つの違いは説明が難しいのですが一番優先が高い過去問は昭和ぐらいからの過去問がほぼほぼ載っている問題集と思ってください。)しかしここには落とし穴があって毎年変な問題が出ます。いわゆる捨て問です。そこまでやることは無駄ではないと思いますが私が落ちているためやるかは皆さん自身で考えてみてください。ちなみに2年間受験してみて最終的に私が大事だと考えるアウトプットの優先順位も書いておきます。「模試＞予想問題＞教科書・テキストの過去問＞過去問＞学校のテスト」です。学校のテストは1位を取ったら勉強のモチベになるのでモチベ維持のための道具だと思っておくのが良いと思います。

2つ目は法改正を軽んじていた点です。これも皆さん聞かと思いますがやはり今年の法改正は狙われます。私の自論ですが、宅建業法は確実に出ます。また主要な改正点は改正後2, 3年出ます。権利関係は法改正年度も出ますが改正年は出なくてもその翌年や翌翌年に出ます。それ以外の法令上等の科目は2年間の勉強では分かりませんでした。予想問題と模試、大学の先生を参考にしてください。法改正は資料をパラパラ見るのではなく改正点を頭の中で具現化して理解するのが良いと思います。

3つ目は夏休みの過ごし方です。2年目は反省してさすがに同じことはしなかったですが勉強を一切しない事はしない方が良いと思います。正直言ってめんどくさいです。1年の時に夏休み大学の夏期セミナーもさぼって全く勉強しないとまた合格ラインに持っていくのに1カ月と1週間かかりました。9月頃から始めて宅建の2週間前までかかりました。1年目で夏やらずに受かった人はいましたが同じく大変そうでした。

ここまで読んでいただきありがとうございます。宅建勉強前にこの体験記を読んでもよく分かんないと思いますので勉強してみてまた読んでみ下さい。無駄な3, 4分にはならないと思います。正直1年の時体験記を見て印象に残った先輩はいません。それぐらい体験記は読みながされるものだと思います。画一的に高校勉強していない私が…の共感が多い

中私は不合格体験記と言う形で反面教師にさせていただきたく落ちた主な要因を書かせていただきました。また、小手先の技術や「…するのが良いと思います」をいくつか書かせていただきました。これは根本の学習は自分で考えてしろと言う意味です。読みながされる体験記で1人だけに刺さるように願っています。その人は勉強に行き詰まる事は無いと思います。そんな中、入学式でもらった合格体験記に使えるような勉強法書いてあったなと暇なときもう一度読んで頂く事で私の今書いている2時間弱の時間が報われます。あと2年ぐらいは不動産棟4階にいると思うのでどんなことでも良いので話しかけてください。

最後に中村先生、島本先生ありがとうございました。

恋して！落ちて！合格！

2年 及川 史華

ここには、私と友達（せんり）2人で掴んだ合格への道のりを綴ります。私は去年、落ちました。正直何が原因か分かりませんでした。1つ落ちた原因をあげるとしたら、恋愛です。大学入りたいに好きになった人のことをいつまでもいつまでも引きずっていて、勉強に身が入らない日々でした。だらだら適当に過去問を解いていたので理解せずに進んでいくという感じでした。



2年生になり、今年は絶対にとりたい！と思えば良いところなのですが、去年で燃え尽きてしまったのか中々やる気が起きず、夏休みに入ってもゆるーく勉強してました。そして9月の土曜模試、最初の模試では18点。こんなんでも受かるわけがない。横では友達が30点超え。どうしても比べてしまう、自分が低いとやる気もどんどん落ちていきました。そんな時は誰かに言うてみてください。友達でも、先生でも、親でも誰でもいい。心がスッキリします。やるしかない！という気持ちを持って1週間勉強。自分が点数を取らないといけない分野はどこののか、模試を見直し理解し、次の土曜日までに仕上げるということを繰り返しました。友達にも教えて貰ったり、教えたり、模試終わりに毎回カフェに行ってみ直しもして、「どっちかが落ちたら最悪だね」とか話して、勉強は苦痛だけど楽しかったです。最初の方は中々点数が上がらなかったのですが、最後の模試では40点で自信を持って本番に挑むことが出来ました。

本番では41点で今までで1番いい点数で合格することが出来ました。友達と2人で合格出来たことが何よりも嬉しかったです。最後に、私が伝えたいことは、やれば出来るということです。あと、自分の今の実力が分かるので土曜模試は絶対に受けた方がいいです。友達と比べない方がいいよ、とか恋愛に気を取られるとか色々周りからは言われますが、恋愛はしたいし比べてしまうことも仕方ないです。自分のペースで分からないところを1つずつ理解していくことが大切です。点数が上がっていくと、自信にも繋がるし楽しくなってきます。これから受験する方たちは、自分のやり方でわかりやすい方法で勉強すれば絶対合格できるので頑張ってください！

大切なのは「積み重ね」

2年 大塚 彩水



私は、宅建試験に2年目で合格しました。1年目は、合格まであと2点というところで、惜しくも不合格でした。この不合格経験を活かし、1年間で心境の変化があった、勉強に対する向き合い方についてご紹介したいと思います。また、注意点についてもお伝えしたいなと思います。

まず、勉強に対する向き合い方です。勉強を始めたての1年生の頃、苦手分野があると、後回しにしてしまい、得意分野ばかり先に進めていました。その結果、最後に残るのはわからない分野の学習ばかりで、勉強へのモチベーションがとても下がってしまいました。また、1年目は夏休み終わってから学習を始めたため、勉強に取り組める時間もあまり多くありません。それなのに、苦手なところを後回しにしたせいで、試験2週間前でも、不明点が多くある状態でした。この状態では、今年は合格が無理かもしれないと悲観的な気持ちになってしまい、苦手分野の学習はほとんどせず試験を迎えました。そのような状態で高得点をとれるはずもなく、民法は半分しか正解できませんでした。これはまずいと感じ、今年は苦手な分野から先に進め、心に余裕を持たせました。苦手分野が理解できるようになると、合格の可能性が見えてくるため、自然とほかの分野も、得点源になるように勉強しようという気持ちが湧いてきます。

次に、注意点です。お伝えしたいことは、2つあります。1つ目は、満点じゃなくても合格できるということです。宅建には、教科書に載っていないような、とても難易度の高い問題がでてくることがあります。過去問を解く時、そのような問題に多大な時間をかけるのではなく、基礎をしっかりと固めていくほうが大切です。2つ目は、同じ勉強をもう一度やり直すのは大変ということです。2年目だから、去年の知識が残っているだろうと思いますが、半分以上は忘れてしまいます。忘れてしまった分はもう一度知識を詰めないといけません。1年目で受かるのが最適ですが、もし2年目に挑戦することになった場合は、少しでも毎日宅建の問題に触れておくことがおすすめです。

試験勉強は、1人でやるには、誘惑も多く、かなりの根気が必要です。しかし、先生や周りの友達を信じ助け合うことで、合格への近道になります。自分を信じて、頑張ってください。合格への道を、心から応援しています。

自信を持つこと

2年 小幡 颯士



僕の1年時の宅建本試験の点数は35点でした。ですが今年の点数は39点でした。合格点は37点です。ではなぜ、4点も点数をあげることができたかをこの合格体験記には書きたいと思います。

まず、初めに宅建試験は授業を受けていれば合格できるような簡単な試験ではありません。そのため、自習勉強の重要性を踏まえた上で僕が大事にしたことは主に3つあります。

1つ目は、自信を持つことです。タイトルにもなっていますが、勉強をする上で自信を持つことはかなり重要だと思います。特に試験が近づいてくると不安は増していきます。その不安は焦りになり正確に問題を解くことが難しくなります。実際に1年時僕はかなり不安でした。そして、本試験では焦りが災いし問題の結論を勝手に決めつけてしまい失点につながっていました。しかし、2年時では10月に入ったころから自信を持つことを心掛けました。自分は勉強しているちゃんと合格に値する努力をしていると言い続けました。その結果、本試験でも焦らず文章を隅々まで見ることができました。

2つ目は、メリハリをつけることです。僕は自分ルールとして日曜日は勉強をしないと決めていました。理由は余裕が欲しかったからです。僕は月曜日から土曜日まで朝の9時ごろに学校に行って勉強を行い夜10時ごろに帰るという生活をしていました。この生活は疲れますし、日曜日まで勉強すると張りつめすぎて余裕がなく焦りにつながると考えました。そのため、日曜日は勉強をしないと決めてメリハリ良く6日間勉強をしました。

3つ目は、勉強方法を広げすぎないことです。試験日が近づくほど不安になり自分のやり方が正しいのかわからなくなり、今までと違う教科書に違う問題集、いろいろな模試に挑戦すると思いますが、出る内容は1冊の教科書から出てきます。また、模試も2社、3社がベストでむしろ同じ問題が出て間違えないようにするのと出た予想問題の周辺知識を確認することが重要です。

これら3つを意識したことで僕は合格することができたと思います。宅建は難しい試験ですが、頑張れば報われる試験でもあります。最後まであきらめず取り組むことが合格への道です。自分を信じて頑張ってください。応援しています。

1 点の悔しさを力に変えて

2年 木谷 信汰

私からは、1年生での失敗談と2年生での成功談についてお伝えしたいと思います。



1年生での失敗談

私は1年生の時、合格点に1点足りず不合格を体験しました。その要因は2つあると思います。

1つは理解できないことをそのままにしてしまった事です。授業の内容や単語など全く理解できず、ついていくので精一杯でした。予習・復習を試みましたが、授業の進度が早く次第に分からないことが増えていきました。それを放置してしまった事で、理解が深まらないまま夏休みを迎えてしまいました。

もう1つはモチベーションの低下です。分からないことをそのままにしてしまった事により模試の点数も悪く、自信を失ったまま本試験を迎えることになりました。その結果1点届かず悔しい結果に終わりました。

2年生での成功談

1年生での失敗を踏まえ、2年生では主に2つのことを意識して学習した結果41点を本試験で取ることができました。

1つは分からないことを徹底的に解消することです。分からない部分から逃げずに弱点を解消するために、何も知らない人に説明をしても100%理解してもらえるくらい徹底的に勉強しました。もう1つは民法の克服です。民法は覚えるのが難しい分野でしたが、その背景や目的を考えながら学習することでとても理解できるし覚えやすくなりました。特に特別法は重点的に取り組み、完璧に仕上げました。その結果本試験では民法で10点を取ることができました。

最後に伝えたい事

本試験は毎年13時から開始されるので、その時間に完璧に脳が働くように試験1か月前からは同じ時間に模試などを解くことをお勧めします。本試験で緊張や不安に押しつぶされ持っている力を発揮できないのは本当にもったいないです！ そうならないようオープンカレッジや授業のテストで本試験を意識して1点でも多く良い点を取るために分からない問題でもくらいついてください！ 不合格から立ち直るのは大変でしたが、「絶対に受かる」「親への恩返しをするため」と自分に言い聞かせ、もう1年頑張ることができました。後、勉強は孤独になりがちなので一緒に支え合える仲間を作るのは1つのモチベーションに繋がると 생각합니다。私のような悔しい思いは皆さんにはしてほしくはありません。なので、時間や環境を言い訳にせず自分に厳しく頑張ってください。最後まで頑張り抜いた先には必ず成功が待っています！

支えが力に変わる瞬間

2年 倉島 理絵

私が2年次に宅建試験を再挑戦するにあたり、まず1年次の不合格の原因を振り返りました。1年次の本試験では、これまでの模試で経験したことのない低い点数を取ってしまいました。この経験をきっかけに「本番に弱い自分」に気づかされました。その日から、「本番に強くなろう」「緊張しても落ち着いて挑もう」と毎日自分に言い聞かせて、勉強に取り組みました。

そんな私にとって大きな支えとなったのが「オープンカレッジ」でした。土曜日に行われるこの講座では、先生方が作成したテストや模試を受けることができ、私はこれを本試験と同じ緊張感を持って臨む練習の場として活用しました。実際、この経験を積んだことで本試験への耐性が身につき、試験のプレッシャーに負けない自信をつけることができました。その結果、本試験では41点を取ることができました。オープンカレッジがなければ合格は難しかったと思います。それほど重要な存在でした。

しかし、オープンカレッジを受けるだけでは十分ではありませんでした。自宅でも継続的に勉強を進める必要がありましたが、やる気や集中力を維持することが難しい時期もありました。特に、2年次には1年次に学んだ内容を再び勉強する必要があり、どうしてもやる気が出ない日々が続きました。そんな私を支えたのが家族の存在でした。「宅建に合格して、家族が喜ぶ姿がみたい」という思いが、私の最大の原動力になりました。両親は高い学費を支払い、私に大学生活や一人暮らしをさせてくれています。私は「普通ではない恵まれた環境」にいることに気づき、両親への感謝と申し訳なさが強く心に残りました。1年次の不合格という結果に対しても、情けなさを感じていましたが、再び応援してくれている家族の支えを思い出すたびにやる気を取り戻すことができました。

これらの経験を通じて、私は「周囲の支えに感謝し、その存在を意識することの大切さ」を学びました。今ここで、この場を借りて、最後まで応援し私を支えてくれた家族、そして熱心に指導してくださった先生方に心から感謝を伝えたいです。合格率15%の宅建試験は決して簡単ではありません。しかし、合格を勝ち取れば、大きな自信を得ることができます。一日一歩ずつでも進めば必ず合格は近づいてきます。もし、この合格体験記を読んでもくださった方の中で、「自分も頑張ろう」と思ってくれる人が一人でもいれば嬉しいです。



宅建合格の肝は権利関係

2年 監物 夕夏

一年生の時に一度失敗し、二年生になってから合格した私が感じたこと、取り組んだ勉強方法について紹介します。



タイトルの通り、宅建合格の肝になるのは権利関係だと思います。私はもともと権利関係が苦手でした。一年生の時は、初めての宅建試験だったこともあり、周りの友達や先輩、先生方に言われた通りに、「まずは宅建業法で18点以上を取れるようになろう」と自分で目標を立てて、ただひたすら宅建業法の過去問を解いていました。しかし、闇雲に過去問を解いていても問題を丸暗記しているだけであって、直前の模試でも試験本番でも結局一度も18点以上を取れたことはなかったです。さらに、権利関係は2点から3点を毎回彷徨っていました。一年生の宅建試験が終わってから、これが不合格の原因だと気がつき、二年生になってからはまず権利関係の分野を一から学習しました。どうしても簡単な宅建業法に逃げたくなったりしますが、絶対に今年宅建試験に合格するんだ！という強い意志を持って最後まで自分を信じて勉強した結果、模試でも平均で7点8点くらいは取れるようになりました。運よく10点取ることができた時はとても嬉しかったのを今でも覚えています。

一年生の時と変えた勉強方法は、直前期に過去問を闇雲になって解くことをやめました。私は丸が多かったりすると調子に乗って見直したり復習したりすることをしない傾向があるので、今までに解いたことのない問題を中心に解こうと思い、予想問題や模試をよく解いていました。50問あるので試験本番を意識して解くことと、解いたら満足しないですぐに丸つけ、間違えたところをテキストで復習して、その確認に同じ分野の過去問を解くという流れで勉強していました。どうしても、直前期はプレッシャーがかかると思います。3日前くらいからは新しい問題には手をつけず、今までに解いた模試の復習や、テキストを隅から隅まで読み込んでいました。意外とまだ知らない情報が記載してあったりするので、重要なポイントだと思います。

これを最後まで読んでいるみなさんが宅建試験に合格できるように応援しています！

2年かかります。

2年 古室 晴哉

こんにちは。私は2年かけて宅地建物取引士試験に合格した、古室です。ここに私の合格体験記を記します。私は明海大学のオープンキャンパスなどに参加し、先生たちが宅地建物取引士試験は決して楽な試験では無いです、っと言っていて、「いや、4択の50問とか余裕でしょ」と正直舐めてました。しかし、一応舐め腐ってはいましたが、私は心配性なので一応4月から勉強を始めました。



みんなまずインターネットなどで勉強の仕方をリサーチすると思います。私もそうしました、そしたら「宅建業法を制すれば合格できる!」とか書いてあり、私もそれを鵜呑みにして、宅建業法だけ勉強してました。これが後々の悲劇に繋がります。

そして夏休みに入りました。本当に勉強しなく、勿論全て知識が剥がれ落ち、模試では25点などを叩き出してました。そして試験当日民法3点で合計27点で落ちました…笑。まじ笑えません。周りに受かってる人などがいて本当に悔しく、辛い日々が続きました。

そして、月日が流れ、2年生になりました。2年目では勉強方法を改めて民法は毎日じわじわ必ず勉強し、宅建業法はコツを掴みほぼ毎日不動産棟に籠もりました。本当に辛かったです。本当に今から勉強する人は、舐めてかからずしっかりコツコツ勉強してください。年1の試験です。1回落ちたら1年後です。どうせ後々から勉強するなら今のうちに嫌だなっと思いながら勉強してください。落ちる方が数億倍キツイので。それと、模試をしっかり受けてください。点数も言い訳せず受け止めて改善すれば受かります。受かったあとは明海大学では生活が本当に楽になるのでちゃんと勉強をして合格した方がいいと思います。応援してます。

要約すると

- ・2年かかる。
- ・民法、宅建業法を完璧にする。
- ・1回落ちたらまた辛い1年が始まること。
- ・応援してます。

宅建合格ストーリー

～まじで全員見てください～

2年 鈴木 千璃



わたしは、友情（ふみ）と家族の想いが詰まって、合格した物語を書きたいと思います。まず、とにかくわたしは人生で勉強などしたくないほど嫌いでした。今もです。ですが、ヒカキンと同じ地元から出てきて、親にも迷惑をかけてばかりの人生だったので宅建合格というお土産を持ち帰りたい気持ちで一年生で合格したいと思いました。ただ、彼氏ができてしまいました。勉強はしていましたが恋愛におぼれて試験4日前からは、なにも勉強せず、不合格に終わりました。オープンカレッジにも行っていたのでお金の無駄でした。後悔しました。親にも申し訳ない気持ちでした。二年次になり、土曜模試を受けることにしました。一緒にいる友達と模試終わりにカフェにいき、お互いが間違えた問題や、どっちかがわからなかった問題を教えあいました。時には先生になって教えたりもしました。楽しかったなー。と思いつつ。そこで1週間の中で、なにを重点的に勉強したらいいかどこを補ったらいいかなど、2人で考えていきました。ですが、ずっと模試の点数で負けていなかった私が学校のテストと、最後の模試で負けてしまい、悔しくて落ちるのではないかと考えるようになりました。負けず嫌いな私はそこでまた火がつき絶対に合格しようという気持ちで最後の1週間、勉強ばかりしてました。人生で初めての勉強量でした。

試験前には、神社に行きお守りを買って、手紙を書いたりもしました。試験当日には、友達と片方が落ちた時のシュミレーションをしたりもするくらい不安でした。ですが、自己採点してみたらお互い41点で合格することができました。1人では絶対に合格できなかったと思います。2人でお互いが刺激しあってこそその合格だと思います。

また、親もそんなに焦らなくていいよ四年間の中で合格できればいいんだよ。と、私を焦らせないで、優しく応援してくれたり、地元の友達も試験近くには遊ばずに応援してくれたり、メッセージをくれたりし、彼氏も私が試験前ピリピリしている中優しく接してくれて、私のメンタルや、勉強ができる環境も良かったと思いました。とても感謝しています。お父さんお母さんいつもありがとう。自分は勉強でいい成績を残したことがなかったため、こんなに勉強してもできないと思っていましたが、この合格を機に、やればできるのだと自信がつきました。友情もさらに深まり、いい思い出になりました。

自分のペースで最後まで

2年 田中 大稀

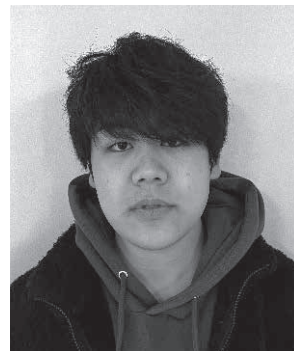
私は1年生の時から宅建試験に合格するための学習に精一杯取り組みました。しかし、実際に合格することができたのは2年生の時でした。1度不合格を経験してからさらにもう1年間モチベーションを維持するのはとても難しかったです。なので、みなさんには1発合格を目指してほしいです。

そのために意識してほしいことは、自分のやり方と自分のペースを絶対に崩さないことです。私の場合、教科書を読み込むよりも過去問を解く時間のほうが多かったです。その結果、分野ごとにどのような知識が問われやすいか、どのようなひっかけがあるかなど、かなり問題に慣れることができました。学習方法やペースは人それぞれなので、自分に合った学習方法とペースを早い段階で見つけられるようにしてほしいです。

もう1つ大事にしてほしいことは、試験本番で自分に自信を持つことです。1年生の時の私にはこれが足りていませんでした。本気で勉強をすればするほど、本番でプレッシャーや不安を感じると思います。見たことのない問題や難しい問題が出題されるかもしれませんが、それは他の受験者にとっても見たことのない問題、難しい問題なので、気にしなくて大丈夫です。そのような問題を見かけても自信を失くさず、確実に解ける問題を落とさないことを大事にしてほしいです。

最後に、最初のうちは難しい言葉も多く、中々やる気が起きないと思うし、興味も湧かない人が多いと思います。ですが、授業を受けていくと少しずつ難しかった言葉もわかるようになり、自然とやる気も興味も出てきます。興味のないことに本気になるのは無理な話なので、スタートラインは常に自分の足元にあると思って、無理せず取り組んでほしいです。

1度不合格を経験した人間の言葉はあまりに心許ないかと思いますが、少しでもこれを読んでくれた誰かの参考になっていたら幸いです。



二年目の勝負

2年 藤田 爽獅

宅建への挑戦と挫折

私は1年生の時に宅建試験を受けましたが、不合格でした。その経験は、非常に悔しく、同時に自分の努力や準備が足りなかったことを痛感させられました。不合格の原因を分析すると、スケジュール管理の甘さや基礎の理解不足が挙げられます。しかし、ここで諦めるわけにはいかないと心に決め、2年生で再挑戦し、今度こそ合格を勝ち取りました。



再挑戦の戦略

1年生の時の失敗を踏まえ2年目は以下の3つを徹底しました。

① 早めのスタート

1年目は試験直前に焦って詰め込む形となってしまったため、2年目は4月から計画的に学習をスタート。毎日できる日は2～3時間を確保し、土日は5時間以上勉強しました。

② アウトプット中心の学習

1年目はインプットばかりで問題演習が不足していました。2年目は参考書を読んだ後に必ず問題集を解き、間違えた問題はその日のうちに復習。宅建試験の問題を繰り返し解くことで出題傾向をしっかりと把握しました。

③ 苦手分野の克服

民法が特に苦手だったので、基本的な条文や判例をわかりやすく解説している動画や書籍を活用しました。不動産学部の授業内容ともリンクさせることで、理解を深めるよう努めました。

試験直前期の取り組み

9月以降は模試や過去問を時間を計って解き、本番と同じ状況を意識しました。試験日が近づくにつれ、苦手分野よりも得意分野の得点を確実にする方針に切り替え、合格ラインを超えることに集中しました。また、勉強の合間には大学の友達と情報交換をしてモチベーションを保ちました。

合格を手にして

合格通知を受け取ったときの喜びは、言葉では表せないほどでした。1年目に不合格を経験したからこそ、合格の価値をより深く実感しています。この経験を通じて、挫折を乗り越える力や計画的に取り組む大切さを学び得ることができました。

これから宅建を目指すかたへ

宅建は決して簡単な試験ではありませんが、正しい戦略と努力を続ければ必ず合格できます。一度失敗しても、それを糧にして前進すれば成功は手に入ります。諦めずに頑張ってください！

重要なのは勉強の量ではなく質

2年 三代 春乃

私は高校三年生のときに、興味本位で初めて宅建試験を受けました。しかし、ほとんど勉強しないで受けたため、不合格でした。そのときは悔しい、という気持ちよりも「なんとなく受けたからそんなもんだな」と納得の気持ちのほうが大きかったです。



大学入学後は、4月から授業を受け始め、過去問を中心に勉強しました。そして夏休みには毎日カフェに通い、朝から夕方まで勉強の日々を送りました。しかし、一生懸命努力したにもかかわらず合格点には届かず、2回目の挑戦も不合格で終わりました。

二年生になった私は、3度目の正直という気持ちで「今年で必ず終わらせよう」と、これまでの勉強方法を振り返ることから始め、ただ長時間過去問や模試を解くだけで満足し、間違えた問題を曖昧にしたままで本試験を受けたことが原因だと気づきました。この反省を活かし、「量ではなく質を重視する」勉強法に切り替えました。

具体的には、夏休みまでに過去問を最低2周は終わらせ、間違えた問題を重点的に復習しました。模試を受けたら間違えた問題を徹底的に見直し、「次に同じ問題が出たら必ず正解できるようにする」ことを意識しました。また、模試の点数が良くても決して満足はしないで復習をすることで、自信をもって答えられる問題を少しずつ増やしていきました。そのおかげで、模試の平均点は1年生のときよりも10点ほど上がり、安定して40点以上を取れるようになりました。

本試験当日は、程よい緊張感で落ち着いて試験に挑むことができました。その結果、合格点を上回る点数を取ることができ、宅建試験に合格することができました。この経験を通じて、「勉強は量ではなく質が重要」ということを強く実感しました。

また、諦めずに努力を続けることができたのは、一緒に頑張る仲間がいて、応援してくれた家族や友達、先生の支えがあったからだと思っています。

宅建試験は簡単な試験ではないけれど、自分に合った効率的な勉強方法と諦めない心があれば必ず合格できます。これから挑戦する皆さんが合格することを祈っています。頑張ってください。

努力の方向

2年 宮本 京



私は宅建試験に2回目で合格を果たしました。

1回目は毎日6時間以上勉強していたにもかかわらず、結果は不合格でした。

しかし、2回目は9月から本格的に勉強を始め、その少ない勉強時間で合格することができました。

この経験から、勉強時間や努力の量だけではなく、効率的な学習方法がいかに重要かを学びました。

1回目の挑戦では、私はとにかく勉強時間を長く取ることに集中し、毎日6時間以上勉強していました。

宅建の全範囲を理解しようとし、必死に勉強していましたが、次第に勉強ではなく作業となっていました。

特に民法や法令上の制限などの科目に対する理解が浅く、過去問を解いても間違える問題が多かったのです。

試験本番が近づくにつれて焦りが募り、試験前には自信を持つことができず、その結果不合格となってしまいました。

この経験を通じて、勉強時間を増やすことが重要ではなく、いかに効率よく学べるかが重要であると実感しました。

2回目の挑戦では、勉強法を見直しました。

まず、1回目の反省を生かし、9月から本格的に勉強を始めました。勉強時間を長く取ることにこだわらず、効率的に学習することを心がけました。

過去問を解くことに重点を置き、出題傾向を掴み、試験に出やすい重要な部分に集中しました。

特に、1回目で弱点だった法令上の制限や民法を中心に復習し、理解を深めることに注力しました。

また、無理に勉強時間を増やさず、短期間で必要な知識を効率よく学ぶことにしました。このように、9月からの約2ヶ月間で効率的に知識を身につけ、試験に臨みました。

2回目の試験では、過去問を繰り返し解くことで自信がつき、試験本番では冷静に問題に取り組むことができました。

結果として、勉強時間をたくさん確保せずとも合格をできました。

この経験を通じて、勉強時間や勉強量だけではなく、効率的に学習することが合格への近道だと強く実感しました。

今後のこの経験から時間の使い方や効率をいかして資格試験や就活に生かしたいと思います。

解きまくる

2年 成島 涼一郎



自分は高校生の時の成績はずっとクラスでビリでした。そんな自分でも宅建に合格することが出来たので、皆さんも必ず合格できます。1年生の時にも受けたのですがその時は宅建業法のみ勉強して挑み、結果は24点で不合格という結果になってしまいました。そこから2年生になり、今年こそは受かる、と決意を決めて勉強を始めました。1年生の時に落ちてから勉強を再開させたのは2年生の夏休みに入ってからで、そこから宅建試験本番までした事を伝えと

1. 市販の分野別過去問を完璧にした。
2. 宅建試験ドットコムの一問一答を6500問解いた。
3. 運動することや睡眠をしっかりとする。

この3つを詳しく説明すると、

1つ目の市販の分野別過去問を完璧にした。

これは色々な試験対策の動画を見ていて、皆さん口を揃えて言っていたことがこの、市販の分野別過去問を完璧にするということです。理由は他の受験生も大半がこの市販の分野別過去問を使っているのだからこれに出ている問題が試験で出たら全員が点を取ってくるので、その貴重な点を落とさないようにすることが絶対です。

2つ目は宅建試験ドットコムというサイトを使って一問一答を大体6500問解きました。

このサイトは平成12年からの過去問を全て収録しているので分野別過去問には載っていない問題を解くことが出来ます。そこで気をつけて欲しいことが2つあり、1つ目は問題の設定を過去12年分にすることです。これをしないと問題の量が莫大になり記憶に定着することが難しくなるので問題数が少なくなっても過去問12年分に絞ることをオススメします。

2つ目は深掘するところを見極めること。

落とせない宅建業法、法令上の制限は深掘必須で、税金は過去の傾向から出そうな所を深掘する、5問免除も満遍なくやり、権利関係は暗記すれば点を取れる借地借家法、不動産登記法、区分所有法を重点的に深掘する。これ意識して宅建試験ドットコムを活用して欲しいです。

3つ目の運動と睡眠は記憶の定着を促進させるために、集中力がきれたりしたら外に出て走りにいっていたのと、しっかり睡眠をとらないと勉強に集中出来ないの睡眠を7時間以上は絶対とることを心がけていました。また、勉強の休憩中はアイマスクをつけたり、仮眠をとって脳がリフレッシュ出来るようにして集中力を取り戻していました。

以上が、自分が宅建試験本番までに行っていたことになります。

最後に、自分は宅建に落ちて来年もまた勉強したくない、今年で絶対に受かる、その一心で最後まで必死に勉強していました。

皆さんも絶対に受かるという気持ちがあれば絶対に合格できます。そして、試験の開始ギリギリまで点数は上がるので最後まで頑張ってください！

支えてくれた全ての人に贈りたい合格体験記

3年 天野 紫咲

これは私が、体験した合格までの三年間の道のりを書き記したものです。

私の合格体験記は、勉強法よりは私が3年間頑張ってきた理由(人との出会い)を主にお話させていただきます。

理由として、勉強をして分かりましたが、合う勉強法は人によって違うからです。だからといって、誰かの勉強法が意味がないというわけではなく、参考にする程度で「自分にあった勉強法を見つける」ことが一番のカギになってくると思います。

今読んでくれている方の中に、「どうせ頭良かったんでしょ?」「自分にはどうせ無理」と思っている人がいるかもしれません。ですが中学校の成績は学年でほぼ最下位、高校は商業科という過去が「頭が良い」とは程遠かったことを表していると思います。

そんな私でも合格できた理由を1つ挙げるとすれば、「努力できる姿勢」があったからだと思います。「宅建は努力すれば受かる」という簡単な言葉では片づけたくはありませんが、頑張れる理由や自分にあった勉強法を継続することで合格に近づくといます。



ここからは、私が良かったと思う勉強法を少しご紹介します。

◎教科書を読む・毎日少しでも目にする

業法→とにかく教科書を読み全て暗記(暗記できれば高い点数が取れ、覚えてなければ他の受験者の人と差が生まれてしまう)

民法→暗記というより自分の頭でかみ砕き、内容を入れるところから想像を働かせる(問題を解くときに状況把握できるようになり、スムーズに入ってくる。私の場合、日常で例えるなどしてずっと覚えていられるように工夫)

法令上→細かい数字など覚えることが多いので特に毎日触れる事(家の壁に貼る)

5問免除→1か月前からで全然間に合う。早くやりすぎても忘れてしまうので意味がない。
統計の分野は中村先生の動画を見る。

分からなかったらまずは自分で調べる。自分にあった解説している人を探し動画をみるのもおすすめです。それでも分からなかったら聞く。自分で調べる癖をつけ、自分で答えを見つけることで人に聞くよりも定着力が良いと感じました。

◎分野別の過去問を解く

教科書を読んだら該当する過去問題集を解く(どこでひっかけしてくるのか問題の傾向が分かるようになり何度も反復することでひっかけにも動じないようになる)

◎年度分別の過去問を解く(余裕があれば12年度分)

一か月半前~二か月前くらいから取り掛かる。分野別の過去問と違い、本番の試験で分野ごとの頭の切り替えが早く出来るようになることを目的にする。(最低でも一回の年度を三周はしたほうがいい) もし試験の日まで一カ月を切ってしまった場合、解く年度を広げ

るのではなく、三周回せるくらいの年度に取り掛かることです。(12年度を一周回すのと、何年度分かを三周するのには、確実に知識の定着力が違います) 沢山の年度を解いた方が絶対良いと思う人の気持ちも分かります。多くの問題には触れられますが、1回解いただけだと全て曖昧なものになってしまいます。そのためにも、試験までに残されている時間から逆算し、何年度分を回せるのか計画立てる事をお勧めします。

◎土曜模試を受ける

まずは受ける。(受けることによって今自分はどのくらい理解しているのかを知ることが出来る) 間違えたところは、教科書でその範囲に戻る→間違えたところの該当する箇所だけではなくその周りも復習する。そうすることによって木に枝が生えるようなイメージで知識が増えていきます。これが本当に大事です。

◎神社に行ってお参りをする

「え、そんなこと？ 意味あるの？」と思われてしまうかもしれませんが、宅建には運も関係しているとよく耳にします。もちろん私も感じました。神様だよりはよくはないと思いますが、宅建を受ける1つのお守りとして行くことをお勧めします。

☆1人ではなく友達と一緒に取り組む

正直、宅建は出会いがすべてだと感じました。私はたくさんの良い出会いに恵まれていたと思います。2年次の夏に参加した宅建合宿で出会った先輩方に声をかけていただき、一緒に勉強に取り組むようになりました。2年次の宅建には落ちてしまいましたが、先輩達と学んだことを思い出し、すぐに自習室や談話室に通い始めました。私はこの先輩お二方と出会えていなければ、きっと3年生でまた頑張ろうとは思えていません。最初は一人でしたが、勉強する仲間が増え、試験直前は22:30まで残ってひたすら教科書と過去問と向かい合わせでした。3年生では、この時に出会った仲間の存在が大きかったです。皆と勉強をしていて、大変、辛いと思ったことはあるけれど辞めたいと思ったことはありません。同じ目標を目指す仲間助けられ、時には感化され、みんなで成績向上することができました。宅建に合格し他の資格取得に向けて頑張っている子は、的確なアドバイスをくれます。皆でやることで自分も頑張ろうという気持ちや、自分の課題を見つけることができます。とにかく、きっかけをつくるためにも自習室や合宿に参加することをお勧めします。

長くなりましたが、毎年、夏期講習の講座を開講して問題の傾向などを教えて下さり、質問は大丈夫かと気にかけてくださった中村先生。絶対に今年は大丈夫だといつも自分を奮い立たせてくださった杉浦先生。宅建合宿を開催してくださった先生方。私がピンチの時も目にかけてくれ、たくさんご指導の末、合格へと導いてくださった劉先生。私が一番集中しやすい環境を作り、談話室を解放してくださった遠藤さん。そこで出会い、ずっと支えてくださった先輩お二方。チューター(先輩から勉強のことなどサポートしてもらえる)制度を利用したときからずっと気にかけてくれた先輩。毎日夜まで顔を合わせて、一番共に過ごした時間の長かった仲間。私が理解するまで嫌な顔をせずに、何度も教えてくれた後輩。「宅建終わったらご飯に行こう」と頑張る理由をくれた大学の友達、ずっと応援してくれた高校の友達、頑張る勇気を与えてくれた幼馴染。

そしてなによりも毎日、体調を崩してはいけないと気遣ってくれ、どんなに遅い時間になっても温かいご飯を作って帰りを待っていてくれた母。私の合格を誰よりもずっと待っていてくれました。私の近くで勉強する力を注いでくれ、ストレスを与えないようにと「受からなくても仕方ないよ」と気持ちを安心させてくれ、一緒になって勉強に励んでくれた父。手作りのお守りをプレゼントし、「自分のペースでいい」といつも相談に乗ってくれた姉たち。そんな家族には特に感謝をしてもしきれません。

ここで出会えた人達が沢山の言葉をくれたから宅建に合格することができました。新たに、他の資格取得に仲間とまた挑戦しようと考えています。努力しているとその姿を見て、背中を押してくれる人が必ずいます。どうしようと悩んでいるときには、きっとスタートラインにいます。不動産学部に入ることを悩んでいる高校生の皆さん。不動産学部は、今までがどんなに良くなくても、自分を変えることが出来るチャンスのある場所です。自分のやる気次第で可能性はいくらでも広がります。私がたくさんの方から背中を押してもらったように、この体験記を読んでもくれた方の背中を少しでも押すことができれば、少しでも役に立てたのなら、私はすごく嬉しいです。皆と同じことをやっても覚えられないし、暗記の定着力が悪い私。だから誰よりも時間をかけて理解し、皆の2・3倍以上の過去問を解き、人一倍の努力をしました。この努力の量が最後の自信に変わりました。必ず、自分に合っているやり方に突破口があります。絶対大丈夫です。

最後に、この場をお借りいたしまして、今まで私と一緒に戦ってきてくださった皆さん、支えてくださった方々に本当に本当に心から感謝いたします。ありがとうございました。

35 点で落ちた翌年の合格

3年 岡田 楓矢

僕は3回目の試験で宅建士に合格しました。1年次は29点、2年次は合格点にあと1点届かない35点で不合格となり、ようやく3年次に合格することができました。この経験を通して得た気づきや勉強方法について振り返りながら、少しでも宅建を目指す皆さんの力になればと思います。



・モチベーションの維持

僕は元々不動産取引に関わる職業に就くつもりはなく、宅建を目指しました。空間デザイン関係の企業に就職したいと考えており、そのキャリアに直接関係はしないものの、専門性が高く国家資格でもある宅建を取得することが将来役に立つかもしれないと思ったのがきっかけです。しかし、この「間接的に役立つかもしれない」という期待はモチベーションを維持する上で難しい部分でした。

ただ、合格した今、宅建の勉強を続けてよかったと思います。その1番の理由は「自信」が得られたことです。受験勉強や資格取得に向けてひたむきに取り組んだ経験がほとんどなかった僕にとって、宅建合格という結果は大きな達成感と自己肯定感を与えてくれました。また、就職活動中には、社員の方々とのお話の中で、内装設計職にも宅建の知識は十分に生かせることを実感しました。

・勉強方法の変化

1年次は29点でした。この点数は、中途半端な勉強量が結果にそのまま出ました。オープンカレッジを受講していたものの、法令上の制限など内容が難しくなるにつれ、模試にも手を抜くようになりました。

2年次は35点。この時に足りなかったのは、過去問を繰り返し解き、本番を想定した勉強をするという努力でした。身近な友達にも合格者が出てきて不合格の悔しさはもちろんありましたが、同時に「来年こそは必ず合格できる」という自信も湧きました。

3年次には42点で合格することができました。この年の大きな変化は、勉強する仲間ができたことです。ゼミや自習室でサボりそうになった時、周りの友達を見て自分もやらなきゃと思えたし、合格後にはその喜びを共有することができました。1人で黙々と勉強していた1、2年次とは違い、仲間との勉強はモチベーションの維持に非常に効果的だったと感じています。

・最後に

宅建の合格は、不動産学部生や関連分野を目指す学生にとって大きな自信となる資格です。資格取得が直接的に将来の職業に結びつかないとしても、その過程で得られる経験や知識は決して無駄にならないと思います。ぜひ、自分には必要ないなどと思わずに、仲間と共に頑張ってください！応援しています。

先生に質問すること、単語を説明できるようにすること

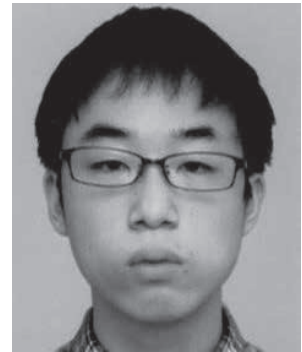
3年 常木 翔太

1年次は、国家資格という重みと、宅建資格は不動産業界では、いわば自動車免許並みの重要性であるということを意識して、興味をもって宅建の講義に望みました。宅建業法の範囲は理解できましたが、民法や法令上の制限の土地区画整理事業のイメージが持てず苦戦しました。

1年次からオープンカレッジに通いましたが、ただ参加するだけで、今思えば自ら学ぶという姿勢に欠けていたように思います。知識を身につけるという積極的な姿勢がありませんでした。「授業に出ていれば受かるだろう」という甘い考えで授業にのぞんでいました。その結果、1年次の宅建受験は不合格でした。受験後に、「覚えることを意識していない」と先生に指摘されて、2年次は、単語を聞かれたらそれがどういう意味かということの一つ一つ説明できるようになるまで学修を進めました。

しかし、税法や五問免除の勉強をおろそかにしてしまい、それが痛手になって、2年次の受験ではギリギリのところで点数が足りず不合格になってしまいました。それでも、これまでに宅建業法と法令上の制限はかなりやりこんできた自負があったので、3年次は残りの分野を意識して学修を進めました。その結果、3年次に合格することができました。

「途中で投げ出してしまう人がいる」と先生から聞きますが、後輩の皆さんには、とにかく授業に出て、分からないところは先生に聞くということをおすすめします。そして単語をただ覚えるだけでなく、説明できるようにすることが重要だと思います。



宅建合格に大切なこと

3年 豊澤 風音

私は3年目にしてようやく宅建試験に合格することができました。今まで勉強というものは遠い存在だった私が、宅建に合格するために大切だと思ったことを伝えたいと思います。



一つ目は、「同志の大切さ」です。私は1, 2年次、家で勉強していました。私の性格上、周りに友達がいると話してしまうと思い、学校に残って勉強することはありませんでした。3年次では、夏休み期間は週に5日、近くの図書館で勉強をしていました。夏休みが終了し後学期が始まった日から、私の勉強スタイルが一変しました。宅建試験に合格したいという、自分と同じ目標を持った「同志」とともに、授業が終わってから毎日20時まで大学の図書館で勉強し、物足りない日はそこから不動産棟に移動して22時近くまで勉強していました。一緒に行くからと言って隣に座ると話してしまうと思い、一番遠い席に座っていました。「一緒にいった意味ないじゃん」と思うかもしれませんが、一人で行くのとは大きな違いで、集中力が切れた時や、疲れてきたときに、「あいつがまだ頑張ってるから俺もまだ頑張ろう」という気持ちになります。これが私の中でかなり大きかったかなと思います。

二つ目は、一度間違えた問題を自分が理解できるまで見直すことです。宅建試験は過去問を何週もすることが大切と言われています。私も過去問は大切だと思います。しかし、ただ繰り返し解いていけば良いという訳ではないと思います。私も1, 2年次では、なんとなく問題を繰り返し解いていました。見直しもなんとなくやっていたので、同じ問題で間違えることが多々ありました。これでは時間ももったいないですし、理解が深まっていないため本試験や模試で同じ問題が出たとしても解けないと思います。そこで私は3年次から、間違えた問題をノートにまとめ、自分が理解できるまで自分なりの解説を書くことを始めました。これを始めてから、一つ一つの分野の理解度が深まり、同じような問題でのミスがなくなり、勉強が効率的になったのと模試の点数が上がりました。

以上の二つが、私が宅建試験に合格するために大切だと思ったことです。

最後に、宅建に合格すると言葉では言い表せない自信が付きます。周りからの見る目も変わります。これから宅建試験に初めて挑戦する人も、再度挑戦する人も、とにかく諦めず、全力で頑張ってください。

諦めずに

3年 湯川 愛里



私は一年生では34点、二年生では33点と数点足りず合格することが出来ませんでした。悩んでいた問題が、最後に見直していた問題が、分からず最終的には勘に頼った問題が、あと2つでもあっていれば合格できたのにと何回も思い、悔しい気持ちでいっぱいでした。

先生方からはよく「1日最低でも3時間勉強するべきだ」と言われていました。しかし、高校時代から勉強が苦手で、部活しかしていなかった私が急にできるわけもなく、さぼりがちな日々を送っていました。初めはついていけていた、取引演習の授業も次第に分からなくなり、週3コマもあるこの授業が嫌いになっていました。このような生活から試験1ヶ月前になり勉強を始めたとしても、合格することが出来ませんでした。

2年次になってもそんな生活は変わらず、「宅建士は合格率も低く難しい資格だからしょうがない」と自分に言い訳し半分諦めていました。

そんな私が3年次に合格できたのは、友達の影響が大きいと思います。1年の時から頑張っている友達が多く、次々に宅建に合格していきました。それにより、不動産営業補助のアルバイトをしている友達がいたりなど、自分の一歩先にいました。

また、就職活動が始まり、資格を記載することや、宅建取得の有無が聞かれることが多くなり、去年頑張っていたらここに書けていたんだと、友達との差が目に見えるようになり悔しい気持ちが大きくなりました。この気持ちから勉強に取り組む意欲が生まれました。

三年目では初めから問題集に取り組みました。2年間で知識はあった為、過去問や予想問題集など、1年生の時には時間がなく活用できていなかったものをすべて解きました。それにより、知識が定着し点数を上げることが出来ました。

諦めずに勉強を続けていくためにも、共に高め合うことのできる友達を作ることが大切だと感じました。難しい試験なので合格できない人もいます。合格できずに諦めている友達と共に過ごしていたら、私は3年でも1、2年と同じことを繰り返し、合格することが出来なかったと思います。明海大学には宅建士を取りたいという同じ気持ちを持った人が多く集まる場所です。友達に影響され、高め合いながら取り組むことで合格を掴み取りましょう。

最後の夏休みから合格へ

4年 橋田 大地

まず、宅建の勉強において最も大切だと思ったのは、「理解する」ことです。ただひたすら問題集を解いていくのではなく、まずは基本的な概念や仕組みを理解することに重点を置きました。例えば、民法の条文を読んで、実際にどのような場面でその知識が使われるのかをイメージしながら学びました。理解することで、記憶に定着しやすくなり、問題を解く際にも「あ、これはこういうことだ!」と自然に反応できるようになりました。



次に、過去問の重要性を実感しました。宅建士試験は、過去問の傾向を知ることで効率的に学習が進むと聞いていたので、徹底的に解きました。問題を解くたびに、間違えた部分や自信がなかった部分をしっかりと復習し、理解を深めました。最初は間違えることが多くても、繰り返し解いていくうちに、少しずつ得点が安定していき、試験に向けた自信がついていきました。

食事や睡眠に気を使うことで、体調管理にも気を配りました。特に、試験直前の数週間は体調を崩さないようにすることが重要だと感じていました。勉強が長時間続くことも多かったので、適度な休憩と栄養補給を忘れないように心がけました。疲れたときには、リフレッシュのために短い散歩をしたり、深呼吸をしたりして、集中力を維持するようにしました。

また、勉強の進捗を記録することで、自分の成長を実感できました。毎日の学習内容をチェックリストにして、達成感を感じることがモチベーションになりました。自分ができたことに自信を持ちながら、苦手な部分にも取り組むことで、少しずつ合格に近づいていきました。

試験前日、最後の確認を終え、試験当日を迎えました。緊張もありましたが、これまでの努力を信じて試験に臨みました。問題を解く中で、普段の勉強がどれだけ自分に役立っているかを実感し、冷静に解答を進めることができました。そして、結果として合格通知を受け取ったときの喜びは、何にも代えがたいものでした。

宅建士の資格を取るために多くの努力をしましたが、それ以上に学んだことは、効率的な勉強方法や生活習慣がいかに重要であるかということでした。宅建士の資格を取得したことで、新たな一步を踏み出す自信を持つことができました。今後も、この経験を活かして、さらに成長していきたいと思っています。

夏期セミナー授業風景



オープンカレッジ



スチューデントルーム



不動産学 別冊-37 合格体験記

—不動産鑑定士試験—

—宅地建物取引士試験—

2025 年 3 月 10 日 印刷

2025 年 3 月 24 日 発行

発行 明海大学不動産学部

